

なかまる

なかまるひがし

# 中丸・中丸東遺跡

- 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書 -

2011.3

山梨県教育委員会

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

なかまる

なかまるひがし

# 中丸・中丸東遺跡

- 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書 -

2011.3

山梨県教育委員会

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構



# 中丸・中丸東遺跡のあらまし

中丸・中丸東遺跡は、山梨県笛吹市境川町小山にあります。今回、山梨リニア実験線を建設することになったため、試掘調査を行ったところ遺構や遺物が発見され、2回にわたる本調査が行われました。ここでは、そのあらましをご紹介したいと思います。

1回めの調査は平成20年に行われ、調査した場所は4箇所に分かれています。それぞれ、A-1区、A-2区、A-3区北部、A-3区南部という調査区名がつけられ、発掘が行われました。2回めの調査は、平成22年に行われ、調査した箇所は東西2箇所に別れています。

A-1区全景



A-1区は、中丸遺跡の範囲になります。東側に傾斜する斜面で、9基の穴（土坑といいます）が見つかったほか、縄文時代の中頃（今から約5000年ほど前）の土器の破片や石器が出土する土層が検出されました。見つかった土器の破片は摩耗していることから、縄文時代の集落があると考えられる南側の平らな台地から流れ込んだ可能性があります。

8号土坑



A-1区で見つかった穴（8号土坑）のひとつです。穴の中からは、石を打ち欠いて作った石器が出土しています。A-1区からは、住居跡など集落に関わる遺構は見つかりませんでしたが、このような穴が検出されたということは、縄文人が何らかの理由でこの土地を利用していたことは間違いません。

A-3区北部調査風景



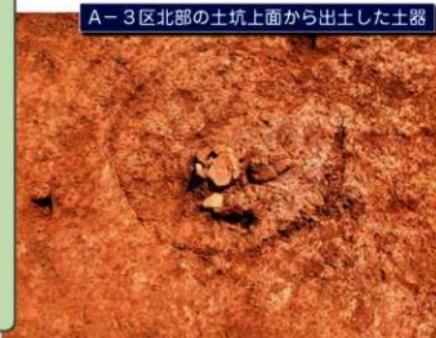
A-3区は、中丸遺跡の範囲になり調査区は、北部と南部に分かれます。北部では、縄文時代の穴が1基確認されています。穴の上面には下の写真のように縄文時代の土器が出土しました。

土器は、今から約5000年ほど前の縄文時代中期の初め頃のものでした。

A-3区南部では、古墳時代終りごろ（約1300年前）の須恵器の破片（右下の写真）が出土した溝状遺構の一部と、直径40cmほどの穴が2基検出されました。

このうち溝状遺構からは、右下の写真のような須恵器の破片がまとまって出土したことから、古墳の周りを廻る溝としての性格が考えられます。また、須恵器の破片の出土は、何らかの祭祀が行われた可能性を示唆するものとして、注目されます。

A-3区北部の土坑上面から出土した土器



A-3区南部の溝状遺構



溝状遺構から出土した須恵器



A-2区全景



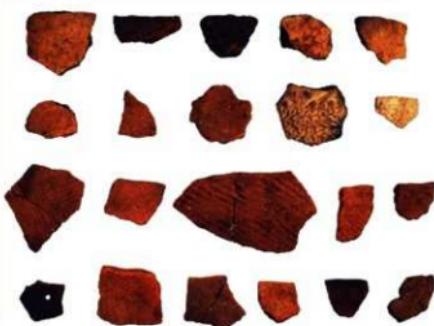
A-2区は、中丸東遺跡の範囲になります。調査区の東側は、御坂山塊から甲府盆地へ向かって流れる狐川の氾濫によって遺構や遺物は確認されませんでしたが、調査区の西側では、縄文時代早期後半～前期末葉（今から約7000～6000年ほど前）の穴や、土器や石器が出土する土層、古墳時代前期（今から約1700年ほど年前）の住居跡のほか、時期不明の掘立柱建物跡が検出されました。これらの遺構が検出されたことから、本調査区を含めた周辺には、上記した時期の集落があったと考えられます。

縄文時代早期後半～前期末葉の土器や石器が出土する土層からは、主に山梨を中心に分布する土器が出土しています。これらの土器の表面には縄文を施すものや、無文のものが多いです。

しかし、今回の調査では関東地方や東海地方で作られたと考えられる土器が出土していることがわかり、当時の人々の交流の様子がわかる貴重な資料として、注目されます。

関東地方の土器（右の写真の上から2段目右から2つめ）。東海地方の土器（上から2段目右から1つめ）。

縄文時代前期の土器（今から約6000年前）



古墳時代前期の住居跡



A-2区で検出された古墳時代前期の住居跡は、一辺が約5mの四角形になると思われ、4つの柱の穴の他に貯蔵穴などの穴が検出されています。また、炉の跡が住居跡中央よりやや北よりで見つかりました。

住居跡からは、壺や甕、小型の鉢など、古墳時代前期でも後半期の遺物が出土していることから、この住居跡も同時期に建てられた住居の跡といえます。

古墳時代前期住居跡の遺物出土状況



住居跡から出土した土器と石器



A-2区で検出された古墳時代の住居跡からは、前述したように、さまざまな遺物が出土しました。

なかでも、左下の写真のように、食料を煮炊きするために用いられた甕の破片が、長さ約42cmもある作業台として用いられたと考えられる石器の上から出土したのは、興味深いものです。下の写真は上記した石器です。割れてしまっていますが、表面がよく磨かれています。



右上の写真の石器の上から出土した土器を復元したのが、左の写真になります。縁の部分の断面がSの字にみえることから、S字状口縁台付甕（Sじょうこうえんだいつきがめ）と呼ばれており、古墳時代前期東海地方にその起源が求められる土器です。



左の写真の土器は、小型の鉢で、ほぼ完形で住居跡の北の壁際から出土しました。食器として用いられたと思われますが一部土器の表面が黒色に変化しており、火を受けた可能性があります。

平成22年度中丸東遺跡調査区航空写真



2回目の調査は中丸東遺跡での調査となりました。調査区は、平成20年度に調査したA-2区の南側となります。東西2箇所に分かれているため、東側調査区（写真左側点線内）、西側調査区（写真右側点線内）として、そのあらましをご紹介します。

東側調査区では、縄文時代と古墳時代の遺物包含層及び、土坑と呼ばれる穴3基が検出されました。

古墳時代の遺物包含層から出土した土器

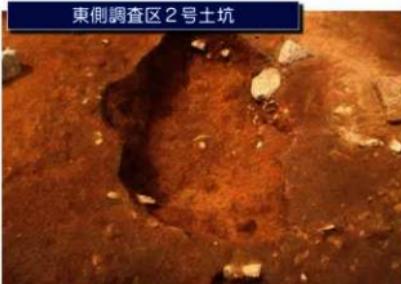


東側調査区では、2号土坑と呼ばれる穴から（右の写真）、縄文時代前期の土器（今から約6000年前）が出土しています。

平成22年度中丸東遺跡東側調査区



東側調査区 2号土坑



平成22年度中丸東遺跡西側調査区



西側調査区（右の写真）では、遺物包含層が残っていませんでした。土坑と呼ばれる穴は4基検出されましたが、遺物が出土していないため、その時期はわかりません。



中丸遺跡平成20年度調査区（白点線範囲内）西から



中丸遺跡平成20年度調査区（白点線範囲内）・平成22年度調査区（白実線範囲内）東から

## 序 文

本書は山梨リニア実験線建設に伴い実施した、笛吹市境川町小山に位置する中丸遺跡と中丸東遺跡の調査成果報告書です。調査の範囲が狭かったことから、両遺跡を中丸・中丸東遺跡としてまとめて報告するものです。

中丸・中丸東遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地ですが開発事業の照会にあたり、平成19年度に遺跡の基礎情報を得るために試掘調査を実施しました。その結果、古墳時代の遺構や遺物、縄文時代の遺物包含層を確認し、本調査を実施しました。

中丸遺跡の調査は、平成20年に発掘調査を行い、縄文時代中期を主体とする遺物包含層が検出されたほか土坑12基、溝状遺構1条を検出し、調査区外に縄文時代中期の遺跡が展開していることを予測させます。また、溝状遺構は須恵器の破片が多数出土していることから、古墳時代後期の古墳の周溝と考えられるもので、須恵器を破碎した祭祀を想起させるものであります。

中丸東遺跡は平成20、22年度に調査を行いました。20年度の調査では、縄文時代前期の遺物包含層から、在地系の土器とともに関東や東海などにその系譜の求められる土器が出土したほか、土坑などの遺構も検出されました。古墳時代では、前期に比定される住居跡が検出され、良好な一括資料が出土しており、当該期集落の一端が確認されたこととなります。22年度の調査では、縄文時代前期の遺物包含層や土坑、古墳時代前期の遺物包含層が確認され、20年度の調査成果に資料を付け加えるものとなり、本遺跡の性格がより明らかとなりました。

つまり、中丸東遺跡では、古墳時代の住居跡1軒、縄文時代早期の土坑1基、前期の土坑3基と時期不明の土坑6基、時期不明の掘立柱建物跡1棟、縄文時代前期と古墳時代前期の遺物包含層を調査しました。

中丸・中丸東遺跡の本格的な調査は今回が初めてとなることから、これらの成果は地域の歴史に新たな知見を加えることができました。本書が本県の歴史や文化財の学習や研究に関わる資料として、少しでも貢献できれば幸いに思います

最後に、調査にあたってご協力頂いた独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構をはじめ、関係機関、関係者に厚く御礼を申し上げます。

2011年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 小野正文



## 例 言

1. 本書は、山梨県笛吹市境川町小山地内に所在する中丸遺跡と中丸東遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は山梨リニア実験線建設に伴うもので、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構からの委託を山梨県教育委員会が受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 遺跡の所在地は、中丸遺跡が山梨県笛吹市境川町小山字中丸999外、中丸東遺跡が山梨県笛吹市境川町小山字中村763外である。
4. 発掘調査は2回にわたり行われ、第1次調査が平成20年6月12日～10月10日、第2次調査が平成22年6月1日～7月2日、第1次調査の室内調査は基礎的整理が、平成21年1月7日～3月19日まで、第1次調査の本格的整理が、平成21年12月1日～平成22年3月10日となる。第2次調査の基礎的整理及び本格的整理は、平成22年8月2日～9月30日となる。
5. 報告書の編集および執筆は、三田村美彦が行った。遺構の写真は、三田村・堀込紀行・石井 明が、遺物の写真は三田村が撮影した。
6. 室内調査の場所は、山梨県埋蔵文化財センター（山梨県甲府市下曾根町923）である。
7. 発掘調査に係る、図面や写真などの記録類や出土品は、山梨県埋蔵文化財センター（山梨県甲府市下曾根町923）に保管してある。
8. 発掘調査に係る調整機関は、山梨県教育委員会学術文化財課埋蔵文化財担当である。
9. 発掘調査に係る基準杭、標高杭及びグリッド杭の設置は株式会社一ノ瀬調査設計に委託した。
10. 第2次調査に係る航空写真は、株式会社テクノプランニングに委託した。
11. 調査にあたり、次の組織や方々にご指導及びご協力いただいた。記して謝意を表したい。  
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、笛吹市教育委員会、大月市教育委員会、望月和幸、福垣自由（順不同：敬称略）

## 凡 例

1. 掲載した遺構図面の縮尺は原則として下記のとおりである。  
遺跡関連図 発掘調査範囲図 1/2,000 遺跡位置図 1/10,000 グリッド設定図 1/1,000  
基本層序 1/40  
遺構関連図 平・断面図 1/500 1/300 1/200 1/60 1/30
2. 遺物実測図 土器類 1/3 石器・剥片類 2/3 1/3 1/6
3. 遺構平面図の網目は [ ] が焼土・擾乱を示す。
4. 遺構平面図中の表記は、●土器・須恵器 ■石器・剥片類である。
5. 遺構図中の断面図脇にある数値は、標高を表す。
6. 遺構図・全体図などに示した方位 (N) は世界測地系座標による真北である。
7. 遺物挿図中、土器類の断面が黒く塗りつぶしてあるものは、須恵器を示す。

## 本文目次

あらまし

序文

例言

凡例

目次

### 第Ⅰ章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の目的と課題	2
第3節 発掘調査の経過	2
第4節 室内調査等の経過	2
第5節 調査組織	3

### 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3

### 第Ⅲ章 調査の方法

第1節 調査の方法	8
第2節 屈序	8

### 第Ⅳ章 第1次調査で検出された遺構と遺物

第1節 中丸遺跡A-1区の遺構と遺物	9
第2節 中丸東遺跡A-2区の遺構と遺物	9
第3節 中丸遺跡A-3区北部の遺構と遺物	10
第4節 中丸遺跡A-3区南部の遺構と遺物	10

### 第Ⅴ章 第2次調査で検出された遺構と遺物

第1節 中丸東遺跡A-2区東側調査区の遺構と遺物	10
第2節 中丸東遺跡A-2区西側調査区の遺構と遺物	11

### 第VI章 総括

写真図版	37
------	----

抄録

## 挿図目次

第1図 中丸・中丸東遺跡発掘調査範囲図	1	第11図 中丸東遺跡A-2区縄文時代土坑平・断面図	22
第2図 周辺の遺跡地図	4	第12図 中丸東遺跡A-2区縄文時代土坑出土遺物	22
第3図 グリッド設定図	5~6	第13図 中丸東遺跡A-2区1号住居跡平・断面・遺物分布図	23
第4図 基本屈序	6	第14図 中丸東遺跡A-2区2号住居跡出土遺物	24
第5図 中丸遺跡A-1区全体図	19	第15図 中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土遺物	25
第6図 中丸遺跡A-1区土坑平・断面図	19	第16図 中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土石器	26
第7図 中丸遺跡A-1区遺構外出土遺物分布図	20	第17図 中丸東遺跡A-2区1号柱立柱建物跡平・断面図	26
第8図 中丸遺跡A-1区遺構外出土遺物	20	第18図 中丸東遺跡A-2区縄文時代遺構外出土遺物分布図	27
第9図 中丸遺跡A-1区遺構外出土遺物	21	第19図 中丸東遺跡A-2区縄文時代遺構外出土遺物	28
第10図 中丸東遺跡A-2区全体図	22	第20図 中丸東遺跡A-2区縄文時代遺構外出土遺物	29

第21図	中丸東遺跡A-2区縄文時代遺構外出土遺物	30
第22図	中丸遺跡A-3区北部全体図	31
第23図	中丸遺跡A-3区北部1号土坑平・断面図	31
第24図	中丸遺跡A-3区北部1号土坑出土土器	31
第25図	中丸遺跡A-3区南部全体図	31
第26図	中丸遺跡A-3区南部1号溝状遺構平・断面図	31
第27図	中丸遺跡A-3区南部1号溝状遺構遺物分布図	32
第28図	中丸遺跡A-3区南部土坑平・断面図	32
第29図	中丸遺跡A-3区南部1号溝状遺構出土遺物	32
第30図	中丸遺跡A-3区南部1号溝状遺構出土遺物	33
第31図	中丸遺跡A-3区南部1号溝状遺構出土遺物	34
第32図	中丸東遺跡第2次調査全体図	35
第33図	中丸東遺跡第2次調査土坑平・断面図	35
第34図	中丸東遺跡第2次調査東側調査区遺物分布図	36
第35図	中丸東遺跡第2次調査出土遺物	36

## 表目次

第1表	遺跡一覧表	7
第2表	中丸・中丸東遺跡土坑一覧表	13
第3表	中丸・中丸東遺跡出土土器観察表	13
第4表	中丸・中丸東遺跡出土石器観察表	18
第5表	中丸・中丸東遺跡出土土製品観察表	18

## 写真図版目次

図版1	第1次調査	39
図版2	第1次調査	40
図版3	第1次調査	41
図版4	第1次調査	42
図版5	第1次調査	43
図版6	第1次調査	44
図版7	第1次調査	45
図版8	第1次調査	46
図版9	第1次調査	47
図版10	第1次調査、第2次調査	48
図版11	第2次調査	49
図版12	第2次調査	50



# 第Ⅰ章 調査の経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯（第1図 発掘調査範囲図）

中丸遺跡及び中丸東遺跡は、笛吹市境川町にある遺跡で、縄文・古墳～平安時代にかけての遺物散布地として、周知された遺跡である。当該する遺跡範囲内に山梨リニア実験線が建設されることとなり、平成19年7月2日から8月31日の間、建設用地内の試掘調査を実施した。その結果、古墳時代の遺構や遺物、縄文時代の遺物包含層が確認されたため、工事の進捗に合わせ、2次にわたる本調査を行うことになった。

第1次調査は、平成20年4月16日、事業者である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構と学術文化財課、埋蔵文化財センターの3者が本調査範囲の確認やその期間、調査工程を現地で協議した。本調査は6月12日から開始し、10月10日に終了した。なお、調査区の名称は試掘調査で命名されたものを踏襲し、中丸遺跡に該当するのが中丸遺跡A-1区、中丸遺跡A-3区北部、中丸遺跡A-3区南部となり、中丸東遺跡に該当するのが中丸東遺跡A-2区となる。

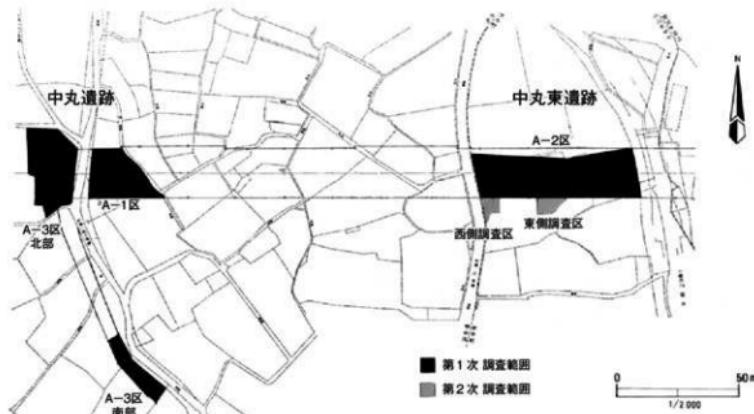
第2次調査は、平成22年4月9日、事業者である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構と学術文化財課、埋蔵文化財センターの3者が本調査範囲の確認やその期間、調査工程を現地で協議した。本調査は6月1日から開始し、7月2日に終了した。なお、第2次調査は、山梨リニア実験線建設の仮設工事用道路建設に伴う調査となり、中丸東遺跡の範囲内となった。調査区は平成20年に調査が行われた中丸東遺跡A-2区の南側に隣接し、掘削が及ぶ範囲を考慮し東・西2地点となることから、東側調査区、西側調査区と命名し、調査を行った。

これらに要する発掘調査と報告書刊行を含めた整理作業の経費は独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が負担した。以上の中丸・中丸東遺跡の発掘調査に係る法的手続きは以下のとおりである。

### 第1次調査

平成20年6月12日、文化財保護法第99条に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長へ提出（教理文第172号）。平成20年10月10日、遺失物法第13条に基づく埋蔵文化財の発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出し、笛吹警察署長への提出を依頼（教理文第451号）。平成20年10月12日、山梨県教育委員会教育長へ発掘調査結果報告提出（教理文第464号）。平成21年3月6日、山梨県教育委員会教育長へ実績報告提出（教理文第740号）。

### 第2次調査



第1図 中丸・中丸東遺跡発掘調査範囲図

平成22年6月1日、文化財保護法第99条に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第115号）。平成22年7月2日、遺失物法第13条に基づく埋蔵文化財の発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出し、笛吹警察署長への提出を依頼（教埋文第263号）。平成22年7月8日、山梨県教育委員会教育長へ発掘調査結果報告提出（教埋文第286号）。

## 第2節 調査の目的と課題

調査に至る経過にも記したとおり中丸遺跡・中丸東遺跡は、ともに縄文・古墳～平安時代にかけての遺物散布地として周知されていたが、今回の調査までは本格的な調査が行われておらず、その性格は不明な点が多くかった。今回の調査は部分的ではあるが、両遺跡とも周知の範囲内で本格的な調査を行うことができるため、その一端を解明することが今回の調査の主たる目的と課題となった。

## 第3節 発掘調査の経過

### 第1次調査

調査は、調査区内の草刈りや調査機材搬入などを平成20年6月12日から行い、6月16日には中丸東遺跡A-2区から重機による表土剥ぎを開始した。これと並行して、プレハブ等施設設置、中丸遺跡A-3区北部の人力による表土剥ぎ、遺構確認を行う。重機による中丸東遺跡A-2区の表土剥ぎが終了したのは6月27日となり、引き続き中丸遺跡A-1区の表土剥ぎを7月4日まで行う。中丸東遺跡A-2区の本格的な調査に着手したのは7月1日からとなり、7月7日には基準杭及びベンチマークの設置を行い、遺構の精査へ着手する。中丸東遺跡A-2区の調査が完了したのは7月29日となり、小型重機による簡易な埋め戻しを行う。引き続き中丸遺跡A-1区、中丸遺跡A-3区北部の調査へ着手し、9月3日には中丸遺跡A-3区北部の調査が終了。小型重機による簡易な埋め戻しを行う。10月3日には中丸遺跡A-1区の調査も完了し、小型重機による簡易な埋め戻しを10月8日まで行う。9月9日からは、中丸遺跡A-3区南部の調査に着手し、10月3日に調査終了。人力による簡易な埋め戻しを10月8日まで行う。10月10日、施設や発掘機材の撤収を行い第1次調査は終了した。

### 第2次調査

平成22年6月1日から重機による表土剥ぎを開始、並行してプレハブ等施設設置、作業員による遺物包含層の掘り下げを行う。6月2日には、東西両調査区の重機による表土剥ぎが完了。6月3日には基準杭及びベンチマークの設置を行い、東側調査区から遺物包含層の掘り下げ、及び遺構の精査へ着手する。6月17日には東側調査区調査終了。西側調査区の調査を開始する。6月28日には、東西両調査区の遺構掘り下げが完了したため、航空写真撮影を実施。6月30日には、遺構の測量作業も終了。並行してプレハブ等発掘施設の撤収を行う。7月1～2日に重機による埋め戻しを行い、第2次調査は終了した。

## 第4節 室内調査等の経過

### 第1次調査

室内調査のうち、遺物の水洗、註記、接合、復元、図面整理など基礎的整理は、平成21年1月7日～3月19日まで行った。遺物実測トレース、遺構トレース、図版作成、写真図版作成などの本格的整理作業は、平成21年12月1日～平成22年3月10日まで行い、原稿執筆は平成21年12月1日～平成22年3月31日まで行った。

### 第2次調査

室内調査のうち、遺物の水洗、註記、接合、復元、図面整理など基礎的整理は、平成22年8月2日～8月31日まで行った。遺物実測トレース、遺構トレース、図版作成、写真図版作成、原稿執筆などの本格的整理作業は、平成22年9月1日～9月30日である。報告書の入稿は平成22年11月8日で、刊行は平成23年3月25日となつた。

## 第5節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

2007年（平成19年）試掘調査担当：田口明子・正木季洋

2008年（平成20年）第1次発掘調査担当：三田村美彦・堀込紀行

第1次調査発掘作業員：飯野金雄・今津武雄・遠藤寅雄・大森 韶・河西元彦・河野敏彦・鯨田達夫・清水千三・杉山秀俊・高嶋 稔・竹野 章・土井みさほ・望月克子・原田みゆき

第1次調査基礎的整理作業員：清水眞弓・竹野 章・原田みゆき・平川涼子

2009年（平成21年）第1次調査本格的整理担当：三田村美彦・小澤美和子

第1次調査本格的整理作業員：垣内律子・清水眞弓

2010年（平成22年）第2次発掘調査担当：三田村美彦・石井 明

第2次調査発掘作業員：河野敏彦・小林としみ・坂口 正・竹野 章・望月敏子

2010年（平成22年）本格的整理担当：三田村美彦・石井 明

第2次調査本格的整理作業員：土井みさほ・森 奈奈

## 第II章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

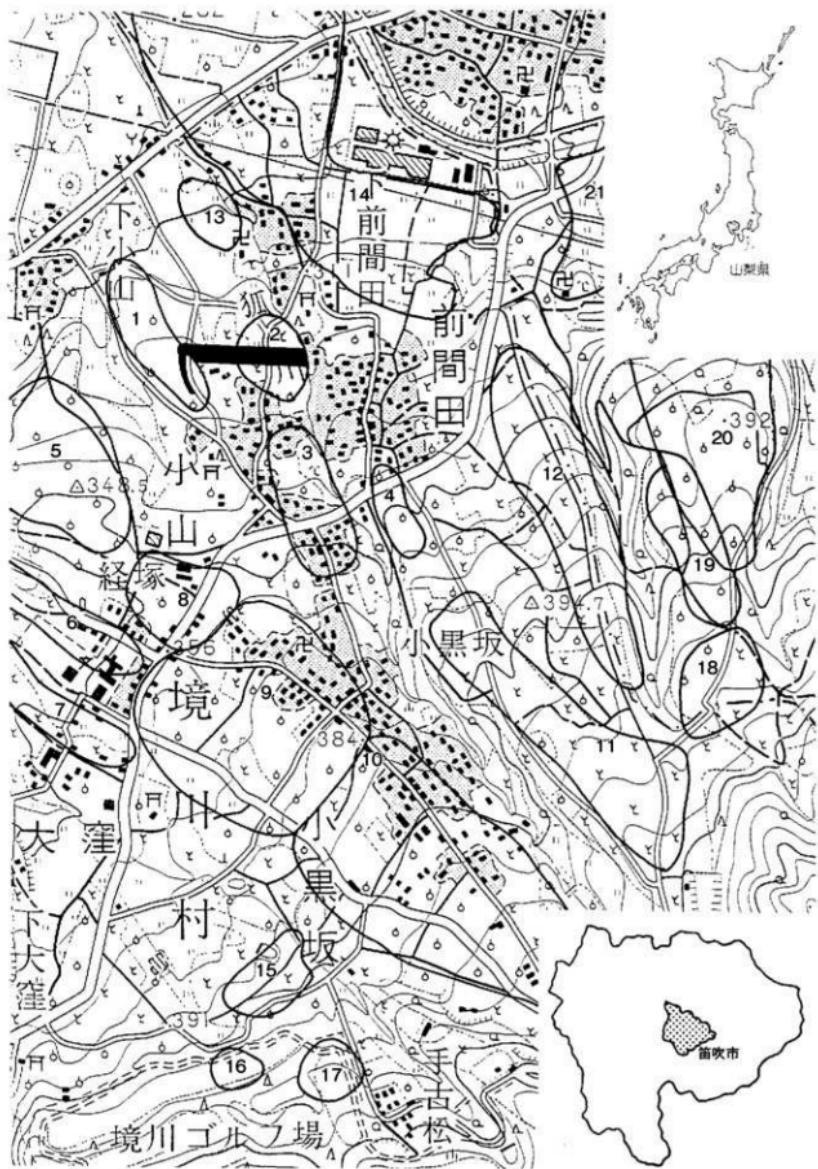
中丸・中丸東遺跡は、山梨県笛吹市境川町に所在する。境川町は山梨県中央部に位置する甲府盆地南縁の曾根丘陵上東端に位置し、背後には御坂山塊が控える。曾根丘陵は御坂山塊から北流する河川の浸食により、北に向かって傾斜する小丘に分かれている。この小丘上から河川に向かう緩斜面上に中丸・中丸東遺跡は立地する。調査区は前年度に行われた試掘調査により4箇所に別れていることから、調査区ごとにその立地を概観したい。なお、中丸遺跡A-1区・中丸遺跡A-3区北部・中丸遺跡A-3区南部は笛吹市境川町小山字中丸に所在し、周知の中丸遺跡の範囲内となる。これに対し、第1次調査の中丸東遺跡A-2区及び、第2次調査区は笛吹市境川町小山字中村に所在し、周知の中丸東遺跡の範囲内となる。

中丸遺跡A-1区は前述した小丘上から孤川へ向かう西側傾斜地に立地し、標高は318m前後を測る。中丸遺跡A-3区北部は中丸遺跡A-1区東側の小丘上に立地し、標高は321m前後を測る。中丸遺跡A-3区南部も中丸遺跡A-3区北部と同じ小丘上に立地するが、より御坂山塊側となるため、標高が327m前後と高低差がある。第1次調査の中丸東遺跡A-2区及び第2次調査区は、孤川左岸の河岸段丘上に立地し、標高319m前後を測る。

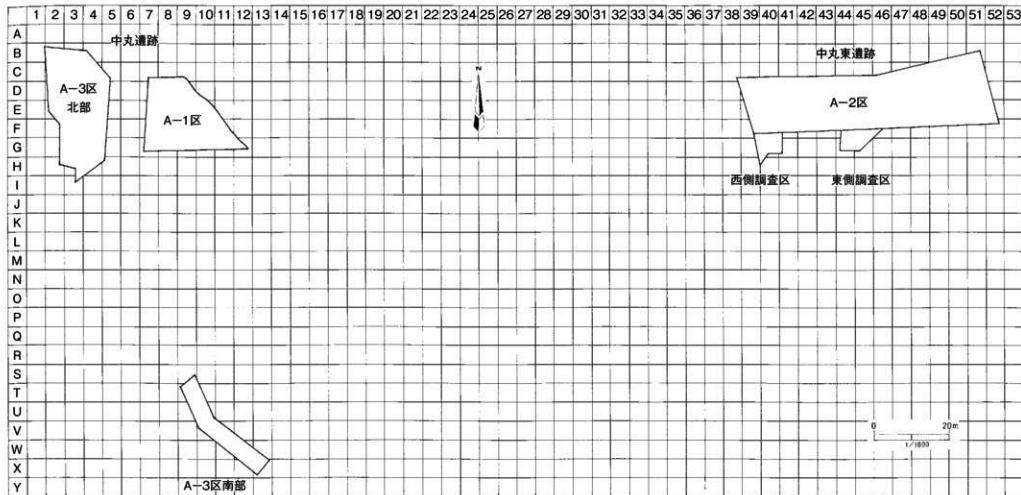
### 第2節 歴史的環境（第2図 周辺の遺跡地図）

中丸遺跡（1）・中丸東遺跡（2）の所在する笛吹市境川町は、山梨県東八代郡境川村として明治36年に誕生し、平成16年10月12日には近隣の町村と合併し笛吹市となり、旧村域は笛吹市境川町となった。名前の由来となる境川は、旧村域の中央部を北流し笛吹川に合流する。

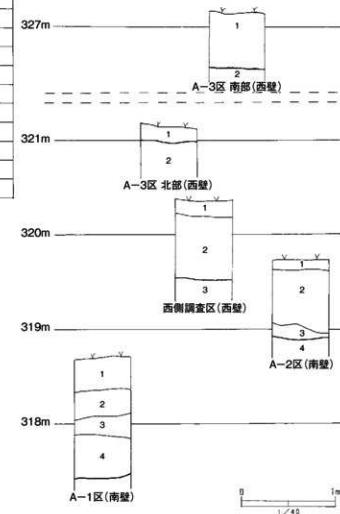
古代の甲斐国は、八代郡・山梨郡・巨摩郡・都留郡の4つに分かれ、笛吹市境川町の所在する八代郡には『和名類聚抄』によると、5つの郷があったとされ、『境川村誌』では前述した境川を境に東側を長江郷、西側を白井郷に推定している。中丸・中丸東遺跡の存在する境川西側から孤川に挟まれた地域は、繩文～平安時代の遺跡が非常に多く分布していることからも、この地域が先史から古代にかけて人々の営みが盛んであったことを想起させる。



第2図 周辺の遺跡地図



第3図 グリッド設定図



第4図 基本層序

周辺の遺跡を概観すると特筆すべきは、小黒坂地区に所在する縄文時代中期の大規模な集落跡として著名な一の沢遺跡（10）である。一の沢遺跡は、昭和58年に行われた笛吹川農業水利事業に伴う発掘調査で、縄文時代中期中葉に比定される住居跡や土坑などの遺構が検出され、遺物が多量に出土した。このうち、土器・土製品69点、石器・石製品107点が、山梨を中心とした独自の発達を遂げた縄文時代中期の生活様式を知る上で欠くことのできない資料としてその学術的価値が高く評価され、国の重要文化財に指定されている。西原遺跡（3）は、平成8～10年にかけて断続的に調査が行われ、縄文時代早～中期・弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物が検出されている。このうち、縄文時代早期では本県であり類例のなかった中葉に比定される土器がまとまって出土しており、本県当該期の様相を知る上で貴重な資料となった。また、境川町内では初めてとなる方形削溝墓も検出されている。柳原遺跡（6）は、昭和63年に境川小学校拡張に伴い調査され、縄文時代草創期の有舌尖頭器や前期後半～中期にかけての遺構・遺物が検出された。金山遺跡（7）は、昭和62年から平成6年にかけて、4次にわたる調査が行われ、縄文時代中期後葉・古墳時代前期・平安時代後期の住居跡などが検出されている。立石北遺跡（9）は一の沢遺跡の北側に隣接する遺跡で、昭和61年から2次にわたる調査が行われ、縄文・弥生・古墳時代の住居跡や、平安時代の住居跡・掘立柱建物跡などが検出されている。仲原遺跡（11）は平成5年に調査され、縄文時代前・中期の住居跡が検出されている。竜安寺西遺跡（12）は中丸・中丸東遺跡と同様、山梨リニア実験線建設に伴い平成20年に調査され、縄文時代前～中期の遺構や遺物が検出されている。手古松遺跡（15）は昭和58年に調査が行われ、古墳時代後期の火災住居が検出されている。亀の子遺跡（16）、机遺跡（17）、寺平遺跡（18）はいずれもゴルフ場開発に伴い昭和58年に調査された。いずれの遺跡でも縄文時代の遺物が出土しているが、寺平遺跡の前中期葉に比定される遺構や遺物は県内では類例が少なく貴重なものである。上ノ平A遺跡（20）は昭和59年に調査が行われ、縄文・弥生・古墳時代にかけての遺構・遺物が検出されている。

#### 参考文献

- |            |      |  |
|------------|------|--|
| 境川村        | 1978 | 『境川村史』   |
| 山梨県教育委員会ほか | 1986 | 『一の沢西遺跡・村上遺跡・後呂遺跡・浜井場遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第16集 |
| 山梨県        | 1998 | 『資料編1』『山梨県史』                                   |
| 境川村教育委員会   | 1999 | 『一の沢西遺跡－第10次調査－』                               |
| 境川村教育委員会   | 2002 | 『西原遺跡・柳原遺跡（2次）』                                |

第1表 遺跡一覧表

遺跡名	種別	時代	遺跡名	種別	時代
1 中丸遺跡	集落跡	縄文・古墳～平安	12 竜安寺西遺跡	集落跡	縄文・古墳
2 中丸東遺跡	集落跡	縄文・古墳～平安	13 毘沙門遺跡	集落跡	縄文・平安
3 中村遺跡	散布地	弥生・古墳・平安	14 石橋条里遺跡	条里	平安
4 東西原遺跡	散布地	縄文・古墳・平安	15 手古松遺跡	集落跡	古墳
5 西原遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳	16 亀の子遺跡	散布地	縄文
6 柳原遺跡	集落跡	縄文	17 机遺跡	集落跡	縄文
7 金山遺跡	集落跡	縄文・古墳・平安	18 大谷沢A遺跡	散布地	縄文・古墳
8 京原遺跡	集落跡	縄文・古墳・中世	19 上ノ平B遺跡	散布地	縄文・古墳
9 立石北遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・平安	20 上ノ平A遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳
10 一の沢遺跡	集落跡	縄文・平安・中世	21 米倉C条里遺跡	条里	奈良・平安
11 仲原遺跡	集落跡	縄文			

## 第Ⅲ章 調査の方法

### 第1節 調査の方法（第3図 グリッド設定図）

#### 第1次調査

中丸遺跡A-1区は、調査区周辺に残土置き場が確保できなかったため、2段階方式で調査を行った。まず調査区東側の表土を重機（0.4m<sup>2</sup>）で剥ぎ、人力による遺構確認および遺構精査を行った。調査区東側の調査終了後、同様の手順で調査区西側の調査を行う。遺構と出土遺物の記録は平板測量で行い、グリッドは世界測地系座標に基づき5mで設定した。以下、各調査区とも遺構と出土遺物の記録方法とグリッドの設定は同様である。

中丸東遺跡A-2区は、表土を重機（0.4m<sup>2</sup>）で剥ぎ残土は、4tダンプで調査区外の山梨リニア実験線用地へ搬出した。その後、人力による遺構確認および遺構精査を行った。

中丸東遺跡A-3区南部は、試掘調査の結果から遺構確認面が表土から20cm前後と浅かったため、調査は表土剥ぎから遺構精査まですべて人力で行った。本調査区も周辺に残土置き場が確保できなかったため、調査区北側から3段階方式で調査を行い、残土の移動のみ小型重機（0.15m<sup>2</sup>）を用いた。

中丸東遺跡A-3区北部は調査面積が狭く小型重機も搬入できないため、中丸東遺跡A-3区南部同様調査は表土剥ぎから遺構精査まですべて人力で行った。

#### 第2次調査

中丸東遺跡での調査となり東西両調査区とも、表土を重機（0.15m<sup>2</sup>）で剥ぎ、残土は両調査区の間に置き場を確保した。その後、人力による包含層の掘り下げ、遺構の精査を行った。

### 第2節 層序（第4図 基本層序）

第1次調査は、調査区が4ヶ所に分かれ、中丸（A-1区・A-3区北部・A-3区南部）・中丸東（A-2区）の両遺跡にまたがり、調査区ごとに異なる地形に立地し土層の堆積状況も異なることから各調査区ごとに層序を示した。また、第2次調査は中丸東遺跡で調査区が東西に分かれる。このうち東側調査区は、A-2区の北側に隣接し同様な堆積状況を示していることからA-2区の基本層序を踏襲し、西側調査区基本層序を図示する。

中丸東遺跡A-1区は、調査区の西から東側にかけて傾斜していることから、縄文時代中期遺物包含層が良好に確認された調査区東側の層序を示す。

1層 暗褐色土層 耕作土。

2層 黒褐色土層 1~5mmの大黄褐色粒子を混入。粘性強い。

3層 暗褐色土層 1~5mmの大黄褐色粒子を多く混入。粘性強い。縄文時代中期遺物包含層。

4層 暗黄褐色土層 1~5mmの大黄褐色粒子を混入。粘性強い。縄文時代中期遺物包含層。

5層 黄褐色土層 5~10mmの大小多量混入。地山で、本層上面が遺構確認面となる。

中丸東遺跡A-2区は、狐川左岸の段丘状に立地し、縄文・古墳時代の包含層が良好に残存していた調査区中央での層序となり、第2次調査の東側調査区の基本層序を兼ねる。

1層 暗褐色土層 耕作土。

2層 黒褐色土層 1~5mmの黄褐色粒子を混入。粘性強し。古墳時代遺物包含層で本層下面が当該期遺構確認面でもある。

3層 暗褐色土層 1~5mmの黄褐色粒子及び、狐川の氾濫で流出したと考えられる10~100cmの大礫を多く混入。粘性強し。縄文時代遺物包含層。

4層 暗黄褐色土層 1~5mmの黄褐色粒子及び、狐川の氾濫で流出したと考えられる10~100cmの大礫を多く混入。粘性強し。本層上面が縄文時代の遺構確認面となる。

中丸東遺跡A-3区北部は耕作による削平が著しく、耕作土下20cm前後で遺構確認面（地山）となるが、地山自

体にも削平が及んでいる可能性がある。

1層 暗褐色土層 耕作土。

2層 黄褐色土層 5~10mmの大いな小砾混入。地山で、本層上面が遺構確認面となる。

中丸遺跡A-3区南部も、耕作による削平が著しい。耕作土下50cm前後で遺構確認面（地山）となるが、地山自体にも削平が及んでいる可能性がある。

1層 暗褐色土層 耕作土。

2層 黄褐色土層 5~10mmの大いな小砾混入。地山で、本層上面が遺構確認面となる。

第2次調査の中丸東遺跡西側調査区は、耕作土下約15cmから碎石を多く含む擾乱層が検出され包含層は残存していない。遺構確認面である3層も削平されている可能性がある。

1層 暗褐色土層 耕作土。

2層 暗灰色砂疊層 多量の碎石が混入し、擾乱された層である。

3層 暗黄褐色土層 1~5mmの黄褐色粒子を混入。本層上面が遺構確認面となる。

## 第IV章 第1次調査で検出された遺構と遺物

### 第1節 中丸遺跡A-1区の遺構と遺物（第5~9図）

A-1区では土坑9基と縄文時代中期の遺物包含層が確認された。このうち、1号土坑と2号土坑は調査区の北東隅で近接して検出され、3~7号土坑までは調査区の北側でまとめて検出されている。8・9号土坑は調査区の南側、縄文時代中期の遺物包含層から検出された。これら土坑の時期はその時期を決定する遺物の出土がなく、1、3、8号土坑が縄文時代中期に比定される可能性があるほかは不明である。

縄文時代中期の遺物包含層は、調査区が東から西へ傾斜する地形のため、土壤が厚く堆積する南西側、F・G-9~12グリッドの範囲内で、約20~40cmの厚さをもって検出された。

包含層から出土した土器は、縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器がその主体となる。ただ、中期後葉の曾利式（第9図26-27）や後期前葉の堀之内1式の破片（第9図30）なども僅かながら出土している。出土した土器はいずれも摩耗が著しく、当該期の遺構が存在すると思われる。調査区南西側の台地上からの流れ込みの可能性が高い。なお、打製石斧や石鎌など石器も含め、遺物の分布は包含層が良好に残存する調査区南西側で集中して検出される傾向が看取される。また、土器の胴部破片を利用した土製円盤（第9図31）が1点出土している。

### 第2節 中丸東遺跡A-2区の遺構と遺物（第10~21図）

A-2区では土坑3基、住居跡1軒、掘立柱建物跡1基と縄文時代早期後半~前期にかけての遺物包含層が確認された。なお、調査区の西側C-E-46~52グリッドにかけては、調査区のすぐ西側を南流する狐川の氾濫による擾乱を受けており、遺構、遺物は確認されていない。上記した遺構はいずれも調査区の東から中央にかけて検出されている。

3基の土坑からはいずれも土器が出土しておりその時期から、1号土坑が前期中葉糞窓堂Z3式期（第12図1~6）に、2号土坑が前期末葉十三普提式期（第12図7）に、3号土坑が早期後半茅山式期（第12図8）に比定されよう。なお、3号土坑からは凹石（第12図9）も出土している。

1号住居跡は、C・D・E-44・45グリッドで検出された。遺構確認面である地山と住居覆土が近似していることから、西壁から南北壁の一部の検出が明確にできなかったが、完存する東壁や柱穴の配置から類推すると、一辺約5.1mの方形プランとなると思われる。遺物出土状況は散在的に出土する傾向がみられるが、北壁際ほぼ中央で壺の胴部上（第14図1）と胴部下半まで残るS字状口縁台付甕（第14図5）が並べられるように出土したほか、台石（第16図39）の上にS字状口縁台付甕の胴部上半（第14図6）が、北壁際ではほぼ完形の小型鉢（第15図36）が、南壁際と思われる箇所からほぼ完形の小型壺（第15図37）が出土している点が注目される。

床面は炉の周辺以外は硬化した面ではなく、貼床なども検出されなかった。柱穴と考えられるものは、P 1～P 4までとを考えられる。P 5は出入り口部の施設に関連する可能性がある。P 6は住居南東隅で検出されていることから、貯蔵穴の可能性がある。深度はP 1～52cm、P 2～56cm、P 3～45cm、P 4～58cm、P 5～48cm、P 6～40cmとなる。炉は住居跡の中央よりやや北東側で検出された。楕円形を呈し深度は10cm程度で焼土の堆積も少なく、貧弱な地床がである。壁は最も残存率のよい箇所で50cmを測る。周溝は検出されていない。また、他の遺構との重複はない。時期は出土した壺やS字状口縁台付甕、小型鉢などの特徴から古墳時代前期の後半、4世紀後半代としておきたい。

1号掘立柱建物跡は、D・E-42・43グリッドで確認された。東西1間×南北2間となり、柱穴の形状は円形あるいは楕円形となり、深度は20～50cmを測る。柱穴の覆土にはいずれも粘性の強い暗褐色土が堆積していたが、遺物は出土していないため、その時期は不明である。

早期後半～前期にかけての遺物包含層は、C～F-44～47グリッドにかけて確認された。色調は暗褐色を呈し、調査区西側では5cm前後であるが、調査区東側にいくにつれ10～15cmの堆積を示す。遺物の分布は調査区西側のC～F-43～46グリッドにかけて集中する傾向が看取され、縄文時代前期前葉から中葉にかけての在地系である、無文の含纖維土器や釧迦堂Z3式がその主体を占めるが、関東系の関山式土器(第19図29)や東海系の清水ノ上2式土器(第19図30)も僅かながら出土している点が注目される。また、前中期葉の十三菩提式土器がC～F-43グリッドを中心に出土している。

### 第3節 中丸遺跡A-3区北部の遺構と遺物（第22～24図）

A-3区北部では、縄文時代中期初頭に比定される土坑1基が調査区南側で検出されたのみで、遺構の分布が稀薄である。その要因として、調査区全体が耕作による削平を受けていることが大きな要因となろう。

1号土坑は調査区の南側で検出され、ほぼ円形を呈す。土坑内からは縄文時代中期前葉の五領ヶ台式土器(第24図1～6)が出土していることから、土坑の時期も当該期に比定されよう。

### 第4節 中丸遺跡A-3区南部の遺構と遺物（第25～30図）

A-3区南部では調査範囲が幅約2m、長さ約17mのトレンチ状となった。A-3区北部同様、南部でも調査区全体が耕作による削平を受けていることが調査区の断面から看取されたが、溝状遺構1条と土坑2基が検出された。

1号溝状遺構はV・W-10・11グリッドで南北方向に検出された。検出された範囲で、幅2.8m前後を測り、深さは最深部で遺構確認面から50cmを測る。断面形態は西側ではしっかりととした掘り込みが確認できるが、東側に向かって緩やかに立ち上がっている。遺物は須恵器の平瓶(第29図1)や大甕の破片(第29図2～第31図36)が溝状遺構の西側を中心まとめて出土しているが、接合するものが少なく、その形状を把握できる資料がないのが特徴である。その時期は7世紀後半～8世紀前半に比定されることから、本遺構も当該期に帰属するものと思われる。

1号土坑と2号土坑は1号溝状遺構の南側で検出され、両者とも5～6cmたらずの掘り込みしかなく、遺物も出土していないため、その時期は不明である。

## 第V章 第2次調査（中丸東遺跡）で検出された遺構と遺物

### 第1節 中丸東遺跡東側調査区の遺構と遺物（第32～35図）

東側調査区では、土坑が3基検出されたほか(第33図1～3号土坑)、古墳時代と縄文時代の包含層が確認された。また、調査区からはその東側を流れる狐川の氾濫で流出したと思われる10～100cm大の礫が多く検出された。

1号土坑は直径約95cmを測る不正円形を呈す。遺物は出土せず時期は判然としないが、覆土の色調は縄文時代の包含層と近似しており、10cm前後の礫が混入している。2号土坑は、長軸が246cmをはかる不定形な橢円を呈す大型の土坑で、覆土の上層と下層から縄文時代前期中葉の釧迦堂Z3式に比定される土器片（第35図1・2）が出土していることから、当該期の遺構と考えられる。3号土坑は直径約40cm程度の不正円形を呈す小型の土坑で、遺物は出土せず時期は判然としないが、1号土坑同様に覆土の色調は縄文時代の包含層と近似している。

包含層は、耕作土下20cm程度から古墳時代の遺物を包含する黒褐色の土層が検出され、60cm程度の堆積が確認された。出土遺物は、S字状口縁台付甕（第35図11～14）や壺と思われる破片（第35図15・16）など、古墳時代前期に比定されるものがF-44グリッドの北側を中心に出土する傾向が看取される。縄文時代の遺物包含層は古墳時代包含層の下層から検出され、暗褐色を呈し、前述した狐川の氾濫に伴う礫も多く混入する。遺物は、縄文時代前期中葉の釧迦堂Z3式に比定される土器片（第35図3～10）のほか、小型の黒曜石製石鏃（第35図17）が出土している。これらの遺物はF-45グリッドを中心に出土する傾向が看取される。

## 第2節 中丸東遺跡西側調査区の遺構と遺物（第32～33図）

西側調査区では、土坑が4基検出されているが（第33図4～7号土坑）、遺物は土器の細片が数点出土したのみで、図示できるものは無く、東側調査区とは対照的である。これは、第3章第2節の基本層序でも記したおり、耕作土下約70cmまで搅乱され包含層はもちろん、遺構確認面である第3層まで削平が及んでいることが原因と考えられる。

土坑はいずれも不定形で、長軸が20～60cm、深度が5～15cmと小型で、前述した搅乱による削平の影響が考えられる。いずれの土坑からも遺物は出土せず、その時期は判然としない。西側調査区で検出された土坑の覆土は、4・5号土坑が東側調査区の縄文時代包含層と、6・7号土坑が古墳時代包含層とその色調が類似する。

# 第VI章 総括

ここでは、第1次、第2次調査の各調査区ごとに検出された遺構や遺物を通じて、遺跡の性格やその意義について検討し総括としたい。

### 第1次調査

中丸遺跡A-1区では、土坑9基が検出された。このうち、時期の判明するものは2基となり、いずれも縄文時代中期に比定されよう。また調査区東側が谷部となり傾斜しているため、縄文時代の包含層が形成され、縄文時代中期前葉五領ヶ台式～後葉曾利式、後葉前葉掘立柱式などの土器片、打製石斧、黒曜石製の石鏃、土製円盤などが出土している。このうち、出土した土器片の摩耗が著しいことから、本区で出土した遺物の大半は、調査区南側の台地上から何らかの自然的要因で土砂とともに調査区へ流れ込んだものと思われる。このことから、調査区南側の台地上には前述した縄文土器の時期に帰属する集落が存在した可能性がある。ただ、本調査区からも縄文時代中期と思われる土坑が検出されていることから、谷部となる本調査区においても何らかの土地利用がされていたことは明らかである。ただ、検出された土坑の性格が不明なため、具体的な利用方法は判然としない。

中丸東遺跡A-2区はそのすぐ東側を狐川が流れており、川の氾濫の影響を受けた調査区東側からは遺構は検出されなかった。ただ、調査区の西側では、縄文時代早期後葉の土坑1基、前期中葉の土坑1基、前葉末葉の土坑1基、古墳時代前期の住居跡1軒、時期不明の掘立柱建物跡1棟が検出された。また、縄文時代早期後葉～前葉末葉にかけての遺物包含層が調査区の中央から東側にかけて検出された。縄文時代の遺物包含層から主体的に出土したのは、前期前葉の中越式と考えられる織維土器や中葉の釧迦堂Z3式などの土器群となり、調査区周辺に当該期の遺構があったことを想起させる。このうち、中越式は長野を中心分布し、本県でも長野県と隣接す

る北杜市（旧白州町）上北田遺跡などで当該期の住居跡から出土しているが、今回の調査で甲府盆地までその分布域が広がる可能性も出てきた。また、前期前葉の関東系の関山1式や東海系の清水ノ上2式など僅かではあるが他地域からの搬入品と思われる土器が出土したことは注目され、この時期の調査事例の少ない甲府盆地南部の曾根丘陵周辺の様相や動態を知る上で上記した土器群は貴重な資料となるものである。なお、関山式土器は、本遺跡の西側に位置する西原遺跡でも出土している。

また、本区では古墳時代前期に比定される住居跡が1軒検出されており、調査区周辺にも同時期の住居跡の存在が予測され、当該期の集落が存在したものと考えられる。住居跡から出土した資料には、古墳時代前期でも後半期の特徴を表している土師器（壺・S字状口縁台付甕・小型壺・小型鉢など）が出土している。S字状口縁台付甕は、S字の屈曲が弱くなり、肩部にヨコハケを施さないものが主体となる。ほぼ完形で出土した小型壺・小型鉢も当該期の特徴をよく表すもので4世紀後半に位置づけられよう。この時期は県内最大の前方後円墳甲斐銚子塚古墳（甲府市）や岡・銚子塚古墳（笛吹市八代町）が築かれた時代であり、これらの古墳に近接する同時期の集落としての本遺跡の位置づけなど、今後とも検討すべき課題は多い。掘立柱建物跡は、柱穴から遺物が出土しておらずその時期が判然としないが、覆土は前述した古墳時代の住居跡と類似する。

中丸遺跡A-3区は山梨リニア実験線の起点となる北部(以下北部とする)と、送電線を設置する南部(以下南部とする)に調査区が分かれる。北部では調査区南側で縄文時代中期の土坑が1基検出されたのみである。遺物も当該土坑から縄文時代中期初頭五領ヶ台式土器の土器片が出土したが、摩滅が著しい。南部では時期不明の土坑2基と溝状遺構が1条検出された。溝状遺構では、7世紀後半～8世紀前半にかけての平瓶や大甕の破片がまとまって出土していることから、古墳周溝内での祭祀を想起させる。中丸遺跡周辺は後期古墳が点在していることから、調査区周辺でマウンドが削平された、古墳の存在を予測させるものである。

## 第2次調査

第2次調査は中丸東遺跡の範囲内の調査となり、東側調査区と西側調査区の2箇所に分かれているが、両調査区とも、平成20年度に調査した中丸東遺跡A-2区の南側に隣接している。特に東側調査区では、縄文時代前期中葉の釧路堂Z3式期に比定される土坑や土器、包含層から出土した古墳時代前期の4世紀後半に位置づけられるS字状口縁台付甕など、平成20年度に調査した中丸東遺跡A-2区での調査結果と共通する点が認められ、本遺跡が主として縄文時代前期と古墳時代前期の遺構、遺物を検出する遺跡としての性格がより明確になったといえよう。

西側調査区では、調査区全体が大規模な搅乱で削平されていたが、土坑4基が検出されたことで、本遺跡の広がりが確認できたことは有意義であった。

以上、中丸・中丸東両遺跡の本格的調査は今回が初となり、縄文・古墳の両時代を中心とする遺物と遺構が検出されたことは、両遺跡の性格の一端が判明したこととなる。それは周辺地域も含めた原始～古代の様相を知る上で新たな資料と知見が加わると同時に、新たな研究課題も提示されたこととなり、これを機会に今後とも検討を行っていく必要がある。

## 参考文献

- |          |                      |
|----------|----------------------|
| 山梨県      | 1998 「資料編1」『山梨県史』    |
| 白州町教育委員会 | 1993 「上北田遺跡」         |
| 境川村教育委員会 | 2002 「西原遺跡・柳原遺跡（2次）」 |

第2表 中丸・中丸東遺跡土坑一覧表

第1次調査 中丸遺跡A-1区

遺構名	図版番号	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時期	備考
1号土坑	6	D-7	楕円形	70	67	26	縄文中期か	縄文土器出土
2号土坑	6	C-D-7-8	楕円形	68	67	21	不明	
3号土坑	6	D-8	楕円形	48	44	10	縄文中期か	縄文土器出土
4号土坑	6	E-8	円形	31	30	9	不明	
5号土坑	6	E-8-9	楕円形	36	29	7	不明	
6号土坑	6	E-8	不整円形	41	26	10	不明	
7号土坑	6	E-7-8	卵形	40	34	8	不明	
8号土坑	6	F-G-9	卵形	95	69	23	縄文中期か	打制石器、縄文土器出土
9号土坑	6	F-9	楕円形	43	38	5	不明	

第2次調査 中丸東遺跡A-2区

1号土坑	11	E-41	不整円形	70	68	33	縄文前期中葉	野原堂2.3式土器出土
2号土坑	11	D-41	円形	72	70	35	縄文前期中葉	十三音式土器出土
3号土坑	11	E-43	楕円形	75	53	22	縄文早期後葉	須恵土器、磨石出土

第1次調査 中丸遺跡A-3区北部

1号土坑	23	G-4	円形	70	64	10	縄文中期後期	長角ケ台式土器出土
------	----	-----	----	----	----	----	--------	-----------

第1次調査 中丸遺跡A-3区南部

1号土坑	28	W-11	楕円形	40	33	5	不明	
2号土坑	28	W-11	不整円形	41	39	6	不明	

第2次調査 中丸東遺跡東側調査区

1号土坑	33	G-44	不正円形	95	90	25	不明	
2号土坑	33	F-45	不正楕円形	246	157	38	縄文前期中葉	野原堂2.3式土器出土
3号土坑	33	F-45	不正円形	45	40	18	不明	

第2次調査 中丸東遺跡西側調査区

4号土坑	33	F-40	不正楕円形	60	52	24	不明	
5号土坑	33	G-40	不正楕円形	55	43	22	不明	
6号土坑	33	F-40	不整円形	38	35	14	不明	
7号土坑	33	F-40	楕円形	30	25	13	不明	

第3表 中丸・中丸東遺跡出土土器・土師器・須恵器観察表 ( ) は推定復元標、雲=雲母、石=石英、長=長石、赤=赤色粒子)

第1次調査 中丸遺跡A-1区

回数	No	地点	種別	時期	基盤	口径/底径 (cm)	施文・模様技法	色調・胎土	備考
8	1	1号土坑	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	無文、内外面ナデ	褐色・雲・石・長・赤	
8	3	3号土坑	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	無文、内外面ナデ	明赤褐色・雲・長・赤	
8	1	8号土坑	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	無文、内外面ナデ	赤褐色・雲・長	
8	3	F-10	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	外周部の縫合線を施文	明赤褐色・雲・長	中期前頭五頭ケ台式
8	2	F-11	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	外周部の縫合線を施文	明赤褐色・雲・長	中期前頭五頭ケ台式
8	3	G-12	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	波線(1mm)、茎粒(1mm)、火文施文	赤褐色・雲・長・赤	中期前頭五頭ケ台式
8	4	G-11	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	1mm、縫合部沈線、「」の字状點付文	明褐色・雲・石・長・赤	中期前頭五頭ケ台式
8	5	G-11	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	1mm、沈線による溝文	明褐色・雲・石・長・赤	中期前頭五頭ケ台式
8	6	G-11	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、併行沈線によるY字文	明赤褐色・長	中期前頭五頭ケ台式
8	7	G-11	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、併行沈線によるY字文	明褐色・雲・石・長	中期前頭五頭ケ台式
8	8	G-10	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、单脚縫合による横沈線	明褐色・雲・長	中期前頭五頭ケ台式
8	9	G-10	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、横拉伸型、端部に斜め文が沿る	明褐色・雲・長	中期前頭五頭ケ台式
8	10	G-10	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、横拉伸型、下端に斜め文、併行沈線	明褐色・雲・石	中期前頭五頭ケ台式
8	11	G-10	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、相位併行沈線	明褐色・雲・石・長	中期前頭五頭ケ台式
8	12	F-10	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、相位併行帶	明褐色・雲・石	中期前頭五頭ケ台式
8	13	F-10	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、有別位拉伸型、側突、沈縫	明褐色・長	中期前頭五頭ケ台式
8	14	F-10	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、沈縫	明褐色・雲・石・長	中期前頭五頭ケ台式
8	15	G-9	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、沈縫	明褐色・雲・石・長	中期前頭五頭ケ台式
8	16	G-10	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、沈縫	明赤褐色・雲・石・長	中期前頭五頭ケ台式
8	17	G-9	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、沈縫	明赤褐色・雲・石・長	中期前頭五頭ケ台式
8	18	G-10	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、側位有刻痕帶	明褐色・雲・石・長・赤	中期前頭五頭ケ台式
8	19	F-11	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	側面、側位有刻痕帶	明褐色・雲・石・長	中期前頭五頭ケ台式
9	20	F-9	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	1mm内面、透底瓦形文	褐色・雲・石・長・赤	中期前頭五頭ケ台式
9	21	F-9	縄文	縄文中期	深沫	—/-/-	1mm内面、透底瓦形文、交叉刻文	明褐色・雲・長	中期前頭五頭ケ台式

図版	№	地点	種別	時期	蓄種	口底(高 cm)	施文・彫刻技法	色調・着土	備考
9	22	F-9	縄文	縄文中	浅沫	-/-/-/-	L1縄文内面、透純彌形文	黄褐色・青・長	中期前頭五頭ケ台II式
9	23	F-11	縄文	縄文中	深沫	-/-/-/-	側溝、縦び目線及び陣帶	明赤褐色・青・長	中期前頭五頭ケ台II式
9	24	F-11	縄文	縄文中	深沫	-/-/-/-	L1縄・単頭縄文	明赤褐色・青・石・赤	中期前頭五頭ケ台II式
9	25	E-10	縄文	縄文中央	深沫	-/-/-/-	L1縄・無文	明赤褐色・青・石・長	
9	26	E-10	縄文	縄文中	深沫	-/-/-/-	L1縄・陣帶による区画文	明赤褐色・青・長	中期中隻筋式?
9	27	E-10	縄文	縄文中	深沫	-/-/-/-	L1縄・陣帶による区画文	明褐色・長	中期後頭骨質式
9	28	E-9	縄文	縄文中央	深沫	-/-/-/-	側溝、縦び目線及び側溝	明赤褐色・青・石・長	中期中隻筋式
9	29	F-10	縄文	縄文中央	深沫	-/-/-/-	側溝文、内外面ナデ	明赤褐色・青・石	
9	30	G-10	縄文	縄文中	深沫	-/-/-/-	L1縄・横粒状縄延	黄褐色・石・長・赤	後期前隻縄之内I式

#### 第1次調査 中丸東遺跡A-2区

12	1	1号土坑	縄文	縄文前	深沫	-/-/-/-	L1縄・無縄文斜絞施文	明褐色・青・石・長・赤	南面中隻縄透堂Z式
12	2	1号土坑	縄文	縄文前	深沫	-/-/-/-	側溝・單頭縄文斜絞施文	明赤褐色・青・石・長	南面中隻縄透堂Z式
12	3	1号土坑	縄文	縄文前	深沫	-/-/-/-	側溝・無縄文を斜絞施文	明赤褐色・青・石	南面中隻縄透堂Z式
12	4	1号土坑	縄文	縄文前	深沫	-/-/-/-	側溝・無縄文を斜絞施文	明赤褐色・青・石・長・赤	南面中隻縄透堂Z式
12	5	1号土坑	縄文	縄文前	深沫	-/-/-/-	側溝・單頭縄文斜絞施文	明赤褐色・石・長・赤	南面中隻縄透堂Z式
12	6	1号土坑	縄文	縄文前	深沫	-/-/-/-	側溝・無縄文斜絞施文	鈎い赤褐色・青・石	南面中隻縄透堂Z式
12	7	2号土坑	縄文	縄文前	深沫	-/-/-/-	側溝・縦び目線状施文	明赤褐色・石・長	南面本壁十三苔模式
12	8	3号土坑	縄文	縄文前	深沫	-/-/-/-	側溝・外外面施文・穿孔	赤褐色・網状面入・青・長	早期後隻茅山式か
14	1	1号住居跡	土師器	古墳前	青	16.8/-/-/-	L1縄・側上・内外面とも摩耗のため調整不明	浅黃褐色・長・赤	4C後半
14	2	1号住居跡	土師器	古墳前	青	13.4/-/-/-	有段L1縄・内外面とも摩耗のため調整不明	赤褐色・青・長	4C後半
14	3	1号住居跡	土師器	古墳前	青	13.6/-/-/-	折衷L1縄・内外面とも摩耗のため調整不明	粉色・長	4C後半
14	4	1号住居跡	土師器	古墳前	青	17.4/-/-/-	L1縄・内面ミキ・外外面ナデ	粉色・長・赤	4C後半
14	5	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	12.3/-/-/-	L1縄ナデ・側溝内面斜絞施文	粉色・青・長・赤	4C後半
14	6	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	17.0/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ナメ	粉色・青・長	4C後半
14	7	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	15.0/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	暗赤褐色・青・長	4C後半
14	8	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	15.0/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	赤褐色・青・長	4C後半
14	9	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	17.0/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	明赤褐色・青・長	4C後半
14	10	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	18.0/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	鈎い赤褐色・青・長	4C後半
14	11	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	16.0/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	粉色・石・長	4C後半
14	12	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	14.8/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	明赤褐色・青・長	4C後半
14	13	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	14.6/-/-/-	L1縄ナデ・外外面ハケメ	粉色・青・長・赤	4C後半
14	14	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	14.0/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	粉色・青・石・長	4C後半
14	15	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	14.0/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	鈎い赤褐色・青・長	4C後半
15	16	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	14.0/-/-/-	L1縄ナデ・内面ミキ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	粉色・青・長・赤	4C中壁
15	17	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	15.0/-/-/-	L1縄ナデ・外外面ハケメ	粉色・青・石・長・赤	4C後半か
15	18	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	12.4/-/-/-	L1縄ナデ・外外面ハケメ	粉色・青・長・赤	4C後半か
15	19	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	14.0/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	赤褐色・青・長	4C後半か
15	20	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	12.8/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	粉色・青・長・赤	4C後半か
15	21	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	13.0/-/-/-	L1縄ナデ・胸溝内面斜絞施文・外外面ハケメ	明赤褐色・青・長	4C後半か
15	22	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	-/-/-/-	胸下平・側溝・外外面ハケメ	粉色・青・長	4C後半か
15	23	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	-/-/-/-	側下平・側溝・外外面ハケメ・内面斜絞施文	粉色・青・長	4C後半か
15	24	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	-/-/-/-	側下平・側溝・外外面ハケメ・内面斜絞施文	明赤褐色・長・赤	4C後半か
15	25	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	-/-6.0/-/-	側溝漏斗折れ・外外面ハケメ・内面斜絞施文	粉色・青・長	4C後半か
15	26	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	-/-8.5/-/-	側溝漏斗折れ・外外面ナデ・内面斜絞施文	粉色・青・長	4C後半か
15	27	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	-/-8.2/-/-	側溝漏斗折れ・外外面ハケメ・内面斜絞施文	粉色・青・石・長	4C後半か
15	28	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	-/-9.3/-/-	側溝漏斗折れ・外外面ナデ・内面斜絞施文	粉色・青・長	4C後半か
15	29	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	-/-10.8/-/-	側溝漏斗折れ・外外面ナデ・内面斜絞施文	粉色・青・長	4C後半か
15	30	1号住居跡	土師器	古墳前	S字費	-/-13.0/-/-	側溝漏斗折れ・外外面ナデ・内面斜絞施文	粉色・青・長	4C後半か
15	31	1号住居跡	土師器	古墳前	小型費	(11.0) /-/-/-	外外面ナデ・内面斜絞施文・胸部ヘラナデ	明褐色・青・長	4C後半か
15	32	1号住居跡	土師器	古墳前	小型費	(10.4) /-/-/-	外外面ナデ・内面斜絞施文・胸部ヘラナデ	明赤褐色・青・長	4C後半か
15	33	1号住居跡	土師器	古墳前	小型費	(8.0) /-/-/-	外外面口縁有刻溝帶・胸部ヘラナデ・内面ナデ	粉色・赤	4C後半か
15	34	1号住居跡	土師器	古墳前	高坪	16.5) /-/-/-	年輪断面有段となる・外外面ともミガキ	粉色・赤	4C後半か
15	35	1号住居跡	土師器	古墳前	高坪	-/-16.2/5.1/-	外外面有段のため不明・内外面ナデ	粉色・赤	4C後半か
15	36	1号住居跡	土師器	古墳前	小型費	13.0/3.6/5.1/-	外外面ヘラナデ・口縁内面ハケメ・胸部ヘラナデ	鈎い赤褐色・青・長	4C後半
15	37	1号住居跡	土師器	古墳前	小型費	10.2/3.0/6.0/-	外外面ヘラナデ・口縁内面ハケメ・胸部ヘラナデ	明赤褐色・青・長・赤	4C後半

図版	№	地名	種別	時期	書體	口表(高 cm)	施文・篆形技法	色調・筆土	備考
15	38	1号住民館	土師器	古墳期	小字型	(11.0) /—/—	外面ヘナダ、内面ミガキ	褐色・黄・赤	4 C 後半
19	1	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、目隠形篆文施文	明赤褐色・鐵畫・長	早期木槧打越式
19	2	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも篆文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・長	早期木槧打越式
19	3	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、内外面とも篆文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	4	D-44	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・黄・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	5	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	6	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	7	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	8	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	9	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、單面鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	10	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・石・其	前南面壁在地系鐵畫土器
19	11	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	12	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	13	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	14	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	15	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	16	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	17	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	18	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	19	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	20	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	21	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	22	C-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	23	C-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・石・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	24	C-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	25	C-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	26	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、内外面とも無文・鐵畫施文	明赤褐色・鐵畫・岩・長・赤	前南面壁在地系鐵畫土器
19	27	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、無脚圓文施文	明赤褐色・鐵畫・長	前南面壁在地系鐵畫土器
19	28	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、外面部前、内面剥落	明赤褐色・鐵畫・岩・石	前南面壁在地系鐵畫土器
19	29	E-44	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面、施行残存、覆状剥落文、掠りの異なるループ文互旋施文	明赤褐色・鐵畫・石・長	前南面壁在地系鐵畫土器 (関東系)
19	30	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、絵画の底形文、口部剥落み有り	明赤褐色・岩	前南面壁在地系鐵畫土器 (東海系)
19	31	D-43	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、捺の異なる半磨痕文を羽状施文	明赤褐色・石・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
19	32	D-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、外面半磨痕文・内面削痕	明赤褐色・石・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
19	33	D-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部、外面半磨痕文・内面削痕	明赤褐色・岩・石・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
19	34	D-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部外面部下無文帶。柱下無脚圓文施文	明赤褐色・岩・石・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
19	35	D-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部外面部下無文帶。以下下無脚圓文施文	明赤褐色・岩・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
19	36	C-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部外面部、無脚圓文施文、穿孔あり	明赤褐色・石・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
19	37	C-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部外面部、無脚圓文施文、内面削痕	明赤褐色・石・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
19	38	C-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部外面部、無脚圓文施文、内面削痕	明赤褐色・石・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
19	39	C-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部外面部、無脚圓文施文、内面削痕	明赤褐色・岩・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
19	40	D-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部外面部、無脚圓文施文、内面削痕	明赤褐色・岩・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
19	41	D-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部外面部、無脚圓文施文、内面削痕	明赤褐色・岩・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	42	D-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	L面部外面部、半磨痕文施文、内面削痕	明赤褐色・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	43	C-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、捺の異なる半磨痕文を羽状施文	明赤褐色・石・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	44	D-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、捺の異なる半磨痕文を羽状施文	明赤褐色・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	45	C-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、半磨痕文施文、内面削痕	明赤褐色・岩・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	46	D-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、半磨痕文施文、内面削痕	明赤褐色・岩・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	47	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、半磨痕文施文、内面削痕	明赤褐色・岩・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	48	E-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、半磨痕文施文	明赤褐色・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	49	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、半磨痕文施文	明赤褐色・石・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	50	E-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、半磨痕文施文	明赤褐色・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	51	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、半磨痕文施文	明赤褐色・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	52	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、捺りの異なる半磨痕文を羽状施文	明赤褐色・石・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	53	D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、半磨痕文施文	明赤褐色・岩・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	54	C-D-45	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、半磨痕文施文	明赤褐色・岩・長・赤	前南中壁軒窓透堂 Z.3
20	55	D-45-46	碑文	碑文早	涩	/—/—	側面背面、捺りの異なる半磨痕文を羽状施文	明赤褐色・岩・長	前南中壁軒窓透堂 Z.3

図版	№	地点	種別	時期	蓄積	口底・高 (m)	施文・鑿型技法	色調・胎土	備考
20	56	C-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文	明赤褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	57	D-46	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文	明褐色・石・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	58	D-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	明褐色・青・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	59	D-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文	明赤褐色・青・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	60	D-46	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文後、手造竹管による平行打痕	明褐色・青・長・赤	前略中隻軒窯堂Z3式
20	61	D-46	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周の無縄文による縦状縄文施文、内面指印痕	褐色・青・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	62	D-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明赤褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	63	D-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明赤褐色・青・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	64	D-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・青・赤	前略中隻軒窯堂Z3式
20	65	E-46	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・石・青・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	66	E-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文、内面指印痕	明褐色・青・石・長・赤	前略中隻軒窯堂Z3式
20	67	E-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	68	E-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文、内面指印痕	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	69	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	70	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文	明赤褐色・青・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	71	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	72	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	明赤褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	73	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	74	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	75	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周の縫合縄文施文	明赤褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	76	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	77	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	78	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・青・赤	前略中隻軒窯堂Z3式
20	79	D-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	明赤褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	80	C-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・石・青・赤	前略中隻軒窯堂Z3式
20	81	E-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周の縫合縄文施文	明赤褐色・青・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	82	E-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	明赤褐色・青・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	83	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、付加条の縫合縄文施文	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	84	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、付加条の縫合縄文施文、内面指印痕	明褐色・青・石・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	85	E-42	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、付加条の縫合縄文施文、内面指印痕	明褐色・石・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	86	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
20	87	C-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文、内面指印痕	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	88	C-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	89	C-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明赤褐色・青・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	90	D-43	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	91	D-43	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	92	E-43	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文、内面指印痕	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	93	E-43	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・石・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	94	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文、内面指印痕	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	95	E-44	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文・羽状縫合縫文施文	明赤褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	96	D-41	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	97	E-41	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文・羽状縫合縫文施文	褐色・石・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	98	E-41	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文・内面指印痕	明褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	99	E-42	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	側部外面、無縄縄文施文	褐色・石・青・赤	前略中隻軒窯堂Z3式
21	100	E-42	縄文	縄文面	深沢	-/- (6.2) /-	底部、底澤外面本彫痕	赤褐色・長・赤	前略中隻軒窯堂Z3式
21	101	E-43	縄文	縄文面	深沢	-/- (0.0) /-	底部、底澤外面無彫痕	赤褐色・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	102	E-43	縄文	縄文面か	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文	褐色・青褐色・青・赤	前略中隻軒窯堂Z3式
21	103	E-43	縄文	縄文面か	深沢	-/-/-	側部外面、半周縄文施文	褐色・青褐色・青・長	前略中隻軒窯堂Z3式
21	104	E-43	縄文	縄文面か	深沢	-/-/-	側部外面無彫痕	明黄褐色・青・長・赤	前略中隻軒窯堂Z3式
21	105	E-43	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	L1縄層、弧状粘着、平行沈線、円形凹付文	明赤褐色・長	前略未壁十三普提式
21	106	D-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	L1縄層、新縄状の平行沈線、竪縞粘着、円形凹付文	明赤褐色・長	前略未壁十三普提式
21	107	C-45	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	L1縄層、新縄状の平行沈線、竪縞粘着	明黄褐色・長	前略未壁十三普提式
21	108	D-43	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	L1縄層底部、3条の粘着痕跡がL字を認める	明赤褐色・青・石・長	前略未壁十三普提式
21	109	D-43	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	L1縄層底部、第2回粘着痕跡を施す。一層高さが約となり、口部内面まで施す。及ぶ	明褐色・長	前略未壁十三普提式
21	110	C-46	縄文	縄文面	深沢	-/-/-	L1縄層、側面粘合焼成で粘着を施す。下端を横位平行沈線で区画	明褐色・長	前略未壁十三普提式

図版	№	地点	種別	時期	断層	口底(高 さ) (m)	施文・鑿削法	色調・崩土	備考
21	111	E-44	縫文	縫文中	深井	-/-/-	側部、沈締が重下する	明褐色・赤・黄	中期前頭五頭ケ台式
21	112	E-44	縫文	縫文中	深井	-/-/-	側部、沈締が重下する	明褐色・赤・黄	中期前頭五頭ケ台式
21	113	E-42	縫文	縫文中	深井	-/-/7.0/-	底部、沈締が重下する	明赤褐色・赤・黄	中期前頭五頭ケ台式
21	114	D-43	須恵器	古墳後	古墳後	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	灰褐色・黄	TC後手-S C 前手

#### 第1次調査 中丸遺跡A-3区北部

24	1	1号土坑	縫文	縫文中	深井	-/-/-	1壁部、半周縫文を施文	明褐色・石・黄・赤	中期前頭五頭ケ台式、摩耗激しい
24	2	1号土坑	縫文	縫文中	深井	-/-/-	側部、集合沈締を施す状施文	赤褐色・黄・長	中期前頭五頭ケ台式
24	3	1号土坑	縫文	縫文中	深井	-/-/-	側部、集合沈締を施す状施文	明赤褐色・黄・長	中期前頭五頭ケ台式
24	4	1号土坑	縫文	縫文中	深井	-/-/-	側部、集合沈締を施す状施文	赤褐色・黄・長	中期前頭五頭ケ台式
24	5	1号土坑	縫文	縫文中	深井	-/-/-	側部、沈締を施す状施文	明赤褐色・黄・長	中期前頭五頭ケ台式、摩耗激しい
24	6	1号土坑	縫文	縫文中	深井	-/-/-	側部、沈締を施す状施文	明褐色・黄・長	中期前頭五頭ケ台式、摩耗激しい

#### 第1次調査 中丸遺跡A-3区南部

29	1	1号溝状通構	須恵器	古墳後	平瓶	-/-/-	側部、外面ハケメ、内面円形拍打の後ナデ	黄褐色・長・赤	TC後手-S C 前手
29	2	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	口縁部、外面クロコナダ、棒状工具による沈締がある、内面クロコナダ	灰黃褐色・長	TC後手-S C 前手
29	3	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	口縁部、外面クロコナダ、棒状工具による沈締がある、内面クロコナダ	明褐色・長	TC後手-S C 前手
29	4	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	口縁部、外面クロコナダ、棒状工具による沈締がある、内面クロコナダ	明褐色・長	TC後手-S C 前手
29	5	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側部、外面クロコナダ、棒状工具による沈締がある、内面クロコナダ	灰黃褐色・長	TC後手-S C 前手
29	6	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	口縁部、外面クロコナダ、棒状工具による沈締がある、内面クロコナダ	明褐色・長	TC後手-S C 前手
29	7	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	暗褐色・石・赤	TC後手-S C 前手
29	8	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	灰黃褐色・長	TC後手-S C 前手
29	9	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	灰黃褐色・長	TC後手-S C 前手
29	10	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	暗褐色・赤	TC後手-S C 前手
29	11	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	灰黃褐色・長	TC後手-S C 前手
30	12	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	黄褐色・長	TC後手-S C 前手
30	13	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	黄褐色・長	TC後手-S C 前手
30	14	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	明褐色・長	TC後手-S C 前手
30	15	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	明褐色・長	TC後手-S C 前手
30	16	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	明褐色・石・赤	TC後手-S C 前手
30	17	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	暗褐色・長	TC後手-S C 前手
30	18	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	暗褐色・長	TC後手-S C 前手
30	19	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	暗褐色・赤	TC後手-S C 前手
30	20	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	オリーブ褐色・赤・赤	TC後手-S C 前手
30	21	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	暗褐色・長	TC後手-S C 前手
30	22	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	暗褐色・長・赤	TC後手-S C 前手
30	23	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	暗褐色・長・赤	TC後手-S C 前手
30	24	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ後横挖ハケメ、内面タキメ	暗褐色・長	TC後手-S C 前手
31	25	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ、内面タキメ	黄褐色・長	TC後手-S C 前手
31	26	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ、内面タキメ	暗褐色・長	TC後手-S C 前手
31	27	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ、内面タキメ	暗褐色・長	TC後手-S C 前手
31	28	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ、内面タキメ	黄褐色・長・赤	TC後手-S C 前手
31	29	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ、内面タキメ	暗褐色・長・赤	TC後手-S C 前手
31	30	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ、内面タキメ	暗褐色・長・赤	TC後手-S C 前手
31	31	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ、内面タキメ	暗褐色・長・赤	TC後手-S C 前手
31	32	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ、内面ナデ	暗褐色・長・赤	TC後手-S C 前手
31	33	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側上半、外面タキメ、内面ナデ	暗褐色・長	TC後手-S C 前手
31	34	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ、内面ナデ	暗褐色・長	TC後手-S C 前手
31	35	1号溝状通構	須恵器	古墳後	大甕	-/-/-	側下半、外面タキメ、内面ナデ	暗褐色・長	TC後手-S C 前手

図版	№	地点	種別	時期	器種	口径/高 (cm)	施文・彫型技法	色調・胎土	備考
31	36	1号溝状遺構	須恵器	古墳後	大甕	—/—/—	側下平、外面タキメ、内面ナデ	暗灰黄色・長	TC後半～8C前半
31	37	1号溝状遺構	須恵器	古墳後	大甕	—/—/—	側下平、外面タキメ、内面ナデ	黄褐色・長	TC後半～8C前半
31	38	1号溝状遺構	須恵器	古墳後	大甕	—/—/—	側下平、外面タキメ、内面ナデ	眞い黄色・長・赤	TC後半～8C前半

第2次調査 中丸東遺跡東側調査区

35	1	2号土坑	圓文	圓文前	深井	—/—/—	側深研片、無施文施文	明褐色・長	南隅中整軸進堂Z3式
35	2	2号土坑	圓文	圓文前	深井	—/—/—	側深研片、無施文施文	赤褐色・長	南隅中整軸進堂Z3式
35	3	F—45	圓文	圓文前	深井	—/—/—	口縁部破片、口縁部に横粒並行沈線、無施文	褐色・石・長	南隅中整軸進堂Z3式
35	4	F—45	圓文	圓文前	深井	—/—/—	側深研片、無施文施文	赤褐色・長	南隅中整軸進堂Z3式
35	5	F—45	圓文	圓文前	深井	—/—/—	側深研片、無施文施文、内面微傾斜	褐色・石・黒	南隅中整軸進堂Z3式
35	6	F—45	圓文	圓文前	深井	—/—/—	側深研片、無施文施文、内面微傾斜	明褐色・長	南隅中整軸進堂Z3式
35	7	F—45	圓文	圓文前	深井	—/—/—	側深研片、甲跡施文施文	明褐色・石・黒	南隅中整軸進堂Z3式
35	8	F—45	圓文	圓文前	深井	—/—/—	側深研片、付加彎条施文施文	明褐色・石・黒	南隅中整軸進堂Z3式
35	9	F—46	圓文	圓文前	深井	—/—/—	側深研片、無施文施文	暗褐色・石	南隅中整軸進堂Z3式
35	10	F—45	圓文	圓文前	深井	—/—/—	側深研片、無施文施文	暗褐色・石	南隅中整軸進堂Z3式
35	11	F—44	土師器	古墳前	S字甕	(13.2)/—/—	口縁ナメ、側面内面指彫痕、外面軽研ホコメ	褐色・青・長・石	4C後半
35	12	F—44	土師器	古墳前	S字甕	(14.6)/—/—	口縁ナメ、側面内面指彫痕、外面軽研ホコメ	褐色・青・長・石	4C後半
35	13	F—44	土師器	古墳前	S字甕	—/—/—	側下平～側面、外面ハケメ、内面ハラウチナメ	褐色・長・赤	4C後半
35	14	F—44	土師器	古墳前	S字甕	—/—/—	側面、内面端部折り返し、踏面痕	暗褐色・長・赤	4C後半
35	15	F—44	土師器	古墳前	甕	—/—/—	研磨片、側面研工によるヨコハケ、刺突	明褐色・石・黒	4C後半
35	16	F—44	土師器	古墳前	甕	—/—(5.8)/—	底部研片、内外面ともハケメ	黒褐色・石・黒	4C後半

第4表 中丸・中丸東遺跡出土石器観察表

第1次調査 中丸通路A-1区

図版	№	地点	分類	長/幅/厚 (cm)	重さ (g)	石材	色調	備考
8	2	8号土坑	打製石斧	9.5/4.5/1.7	86	粘板岩	オリーブ褐色	完存
9	32	F—10	石錐	1.8/1.7/0.5	1	黑耀石	黑色	側面欠損
9	33	F—11	石錐	2.1/1.6/0.5	1	黑耀石	褐色	側面欠損
9	34	F—10	二次加工ある剥片	3.1/1.9/0.9	5	黑耀石	褐色	縦長削刃、刃部一部押付剥離
9	35	G—10	打製石斧	8.5/4.5/1.5	77	粘板岩	灰色	刃部欠損
9	36	F—10	打製石斧	8.9/4.4/1.8	63	粘板岩	褐色	基部欠損
9	37	F—10	打製石斧	10.0/6.0/1.0	62	粘板岩	褐色	基部から側縁一部欠損
9	38	F—11	打製石斧	12.1/7.0/1.6	198	粘板岩	灰白色	基部欠損
9	39	G—10	打製石斧	10.4/5.2/1.8	103	粘板岩	褐色	基部・側縁、刃部一部欠損
9	40	G—11	打製石斧	7.7/5.1/0.8	45	粘板岩	灰白色	刃部欠損
9	41	G—10	打製石斧	8.4/6.7/1.2	82	粘板岩	褐色	基部、刃部欠損
9	42	G—11	體石	7.7/7.7/5.9	474	ダイサイト	眞い黄色	破片

第1次調査 中丸東遺跡A-2区

図版	№	地点	分類	長/幅/厚 (cm)	重さ (g)	石材	色調	備考
12	9	3号土坑	圓石	11.8/9.4/4.6	651	安山岩	灰色	完存
16	39	1号往路	白石	42.2/33.4/9.8	25.8kg	花崗岩	从黄色	破片
21	115	C—45	二次加工ある剥片	3.2/1.6/0.8	3	黑耀石	黑色	縦長削刃、刃部一部押付剥離
21	116	D—45	器器?	2.0/1.8/0.8	2	黑耀石	褐色	刃部押付剥離
21	117	E—44	打製石斧?	5.6/7.5/1.8	106	铁	从褐色	側縁欠損
21	118	E—45	圓石	6.8/8.8/3.5	166	ダイサイト	灰白色	破片

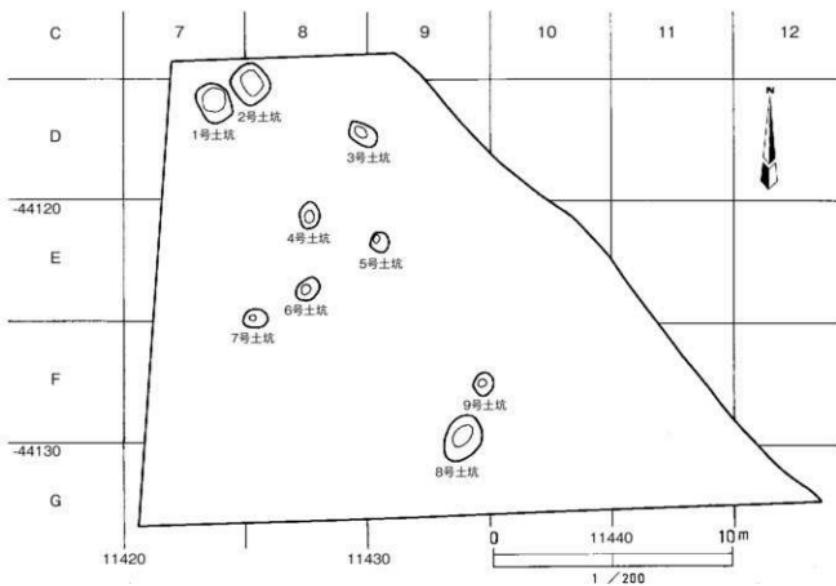
第2次調査 中丸東遺跡東側調査区

35	17	F—45	石錐	1.2/1.1/0.2	0.2	黑耀石	黑色	側面欠損
----	----	------	----	-------------	-----	-----	----	------

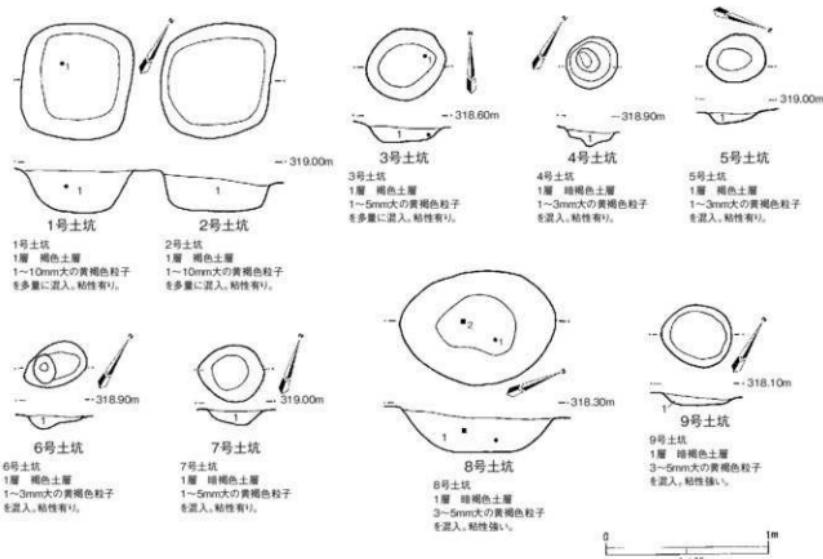
第5表 中丸・中丸東遺跡出土土製品観察表

第1次調査 中丸遺跡A-1区

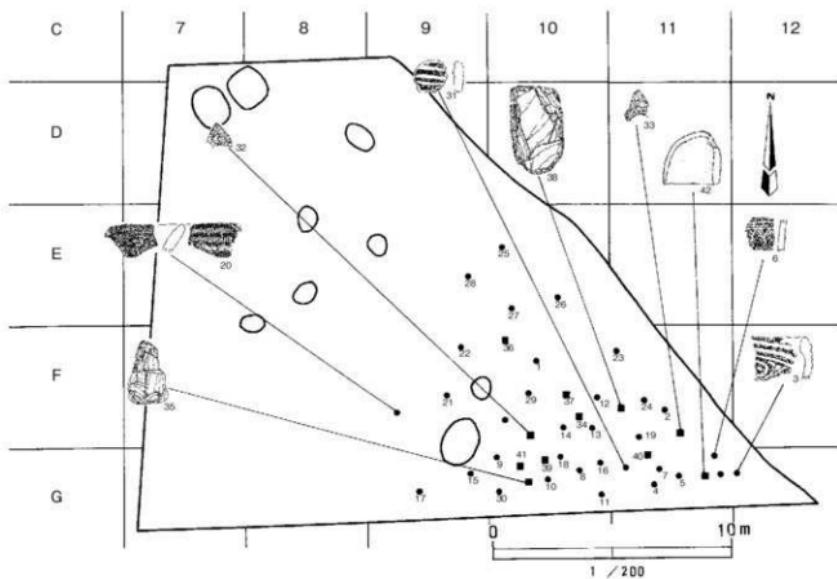
図版	№	地点	分類	長/幅/厚 (cm)	重さ (g)	石材	色調	備考
9	31	G—11	土製円盤	4.2/4.4/1.3	23	土器	明褐色・青・石・赤	圓文時代中期の土器片を加工



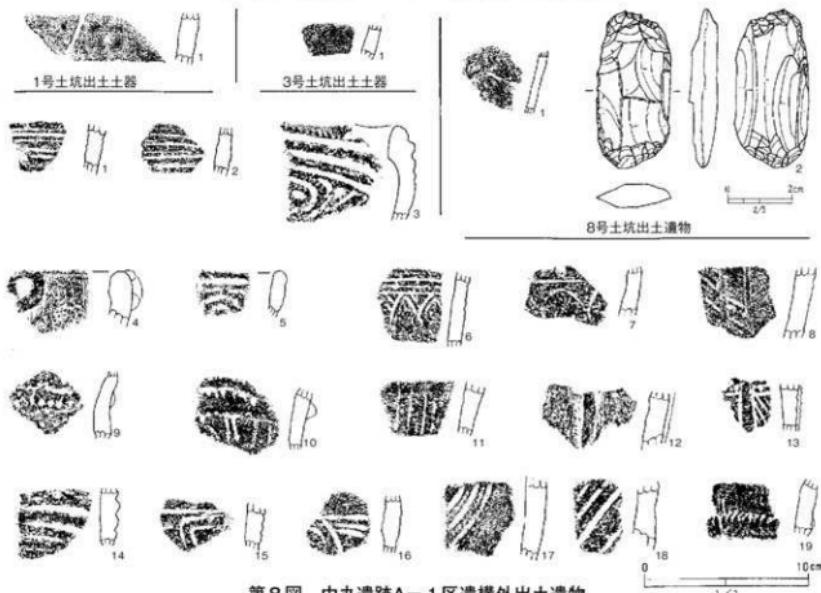
第5図 中丸遺跡A-1区全体図



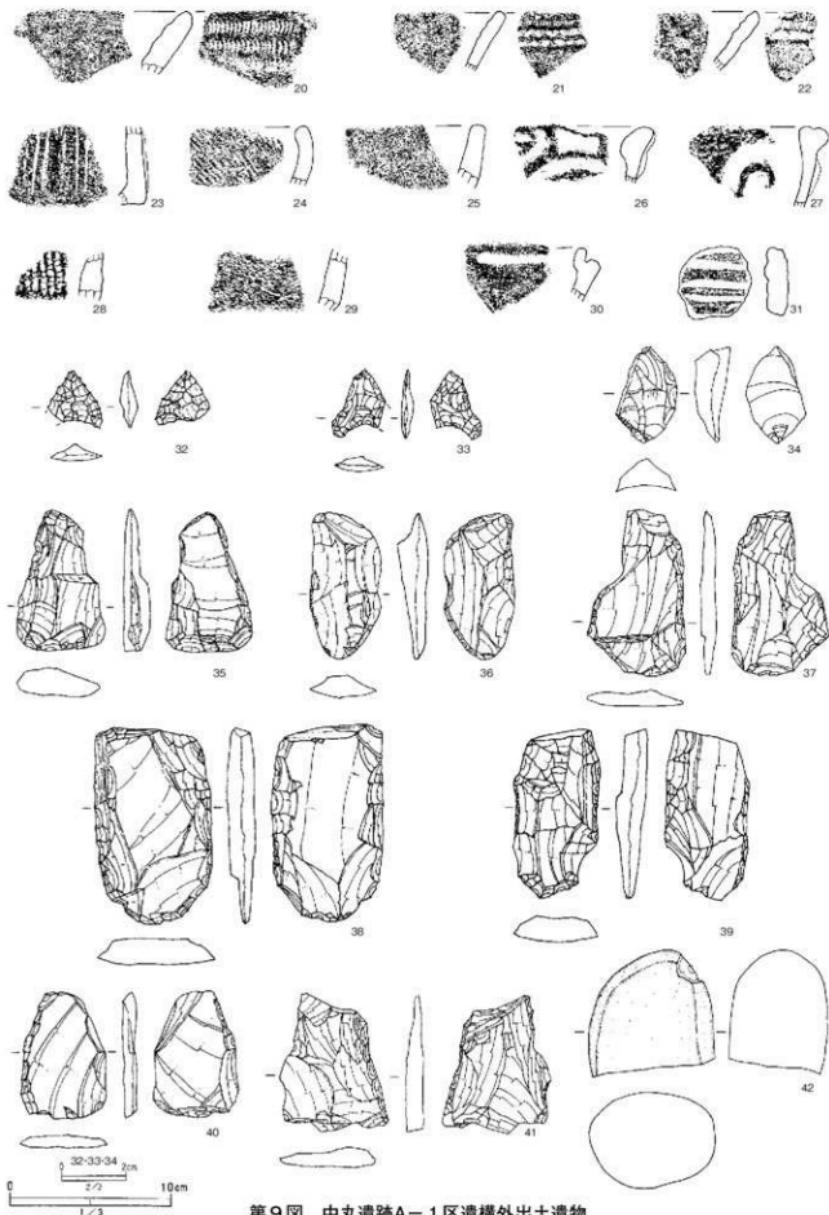
第6図 中丸遺跡A-1区土坑平・断面図



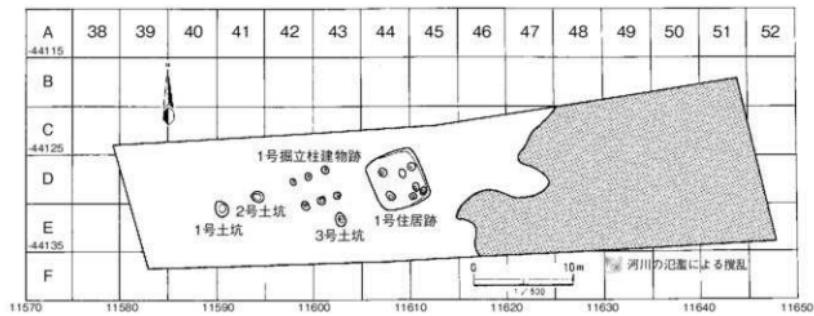
第7図 中丸遺跡A-1区遺構外出土遺物分布図



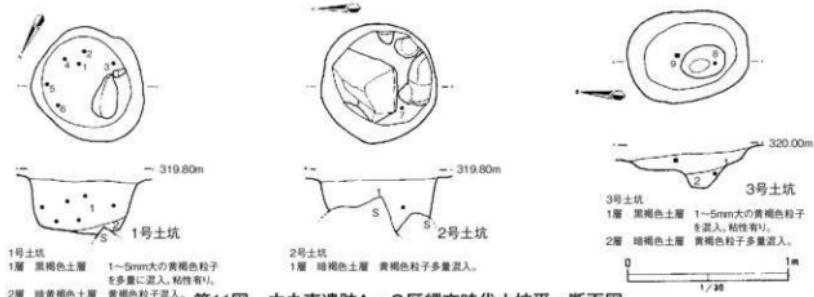
第8図 中丸遺跡A-1区遺構外出土遺物



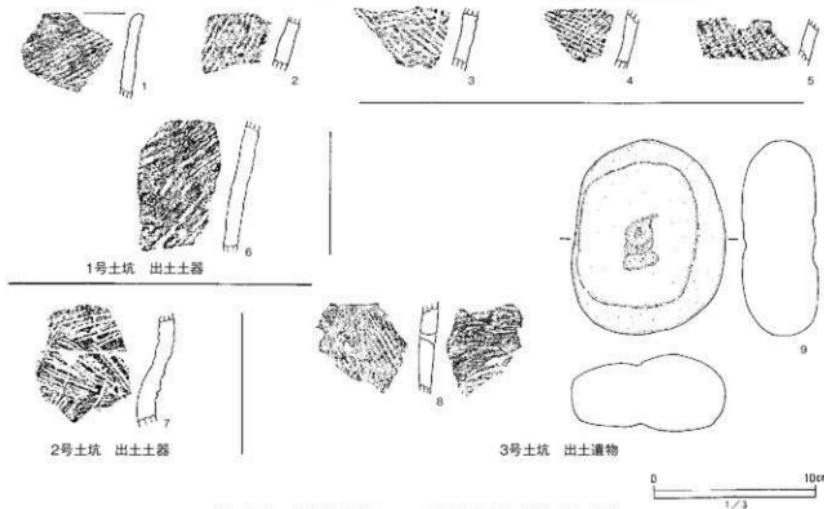
第9図 中丸遺跡A-1区遺構外出土遺物



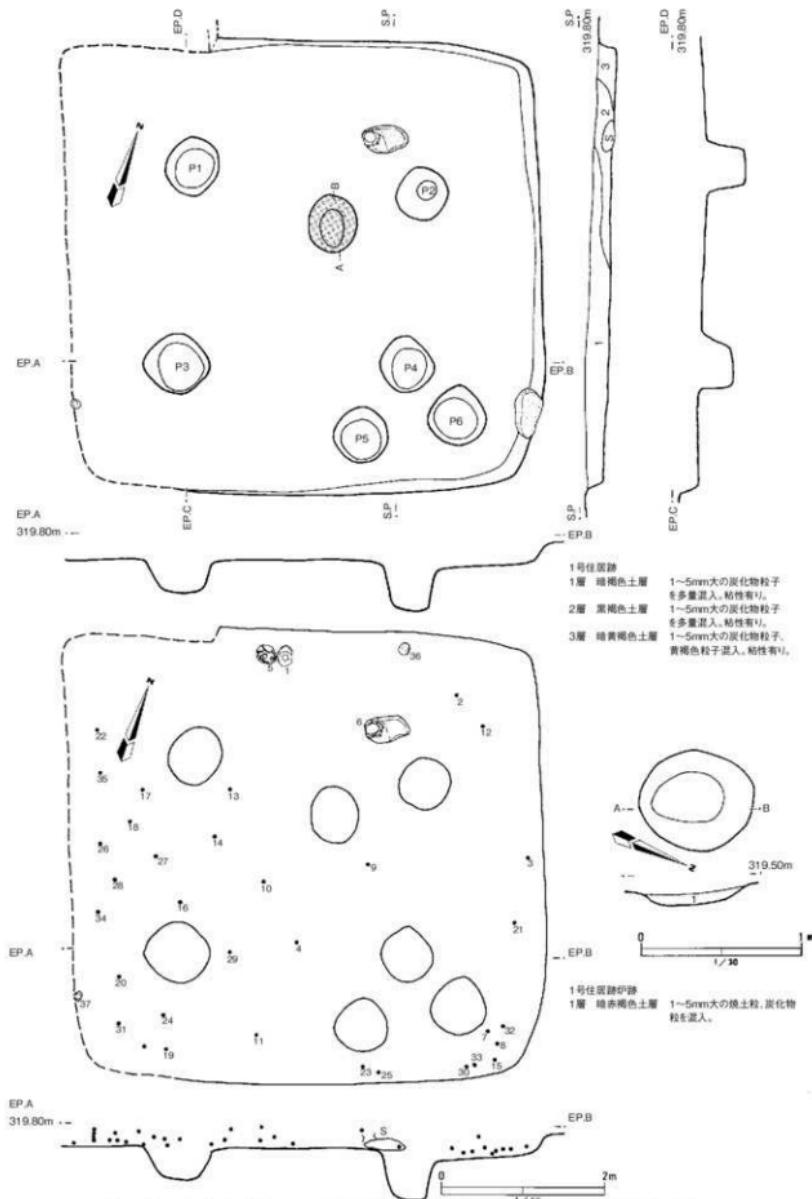
第10図 中丸東遺跡A-2区全体図



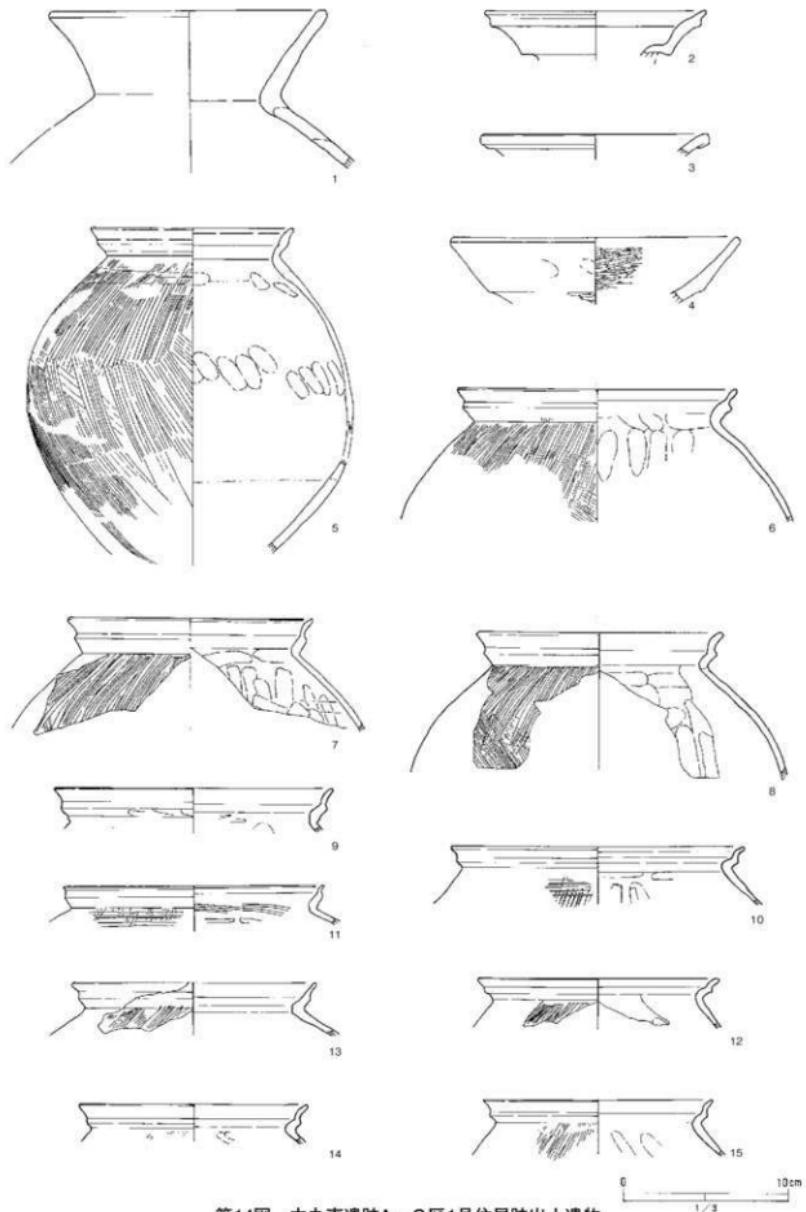
第11図 中丸東遺跡A-2区縄文時代土坑平・断面図



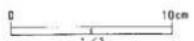
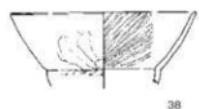
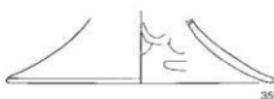
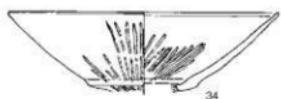
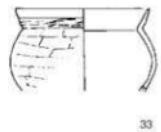
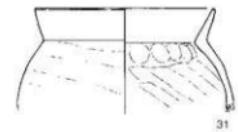
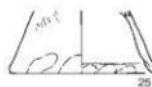
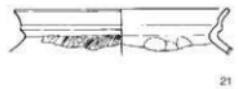
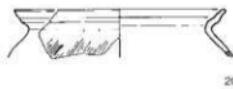
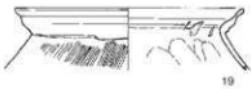
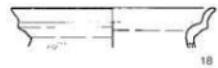
第12図 中丸東遺跡A-2区縄文時代土坑出土遺物



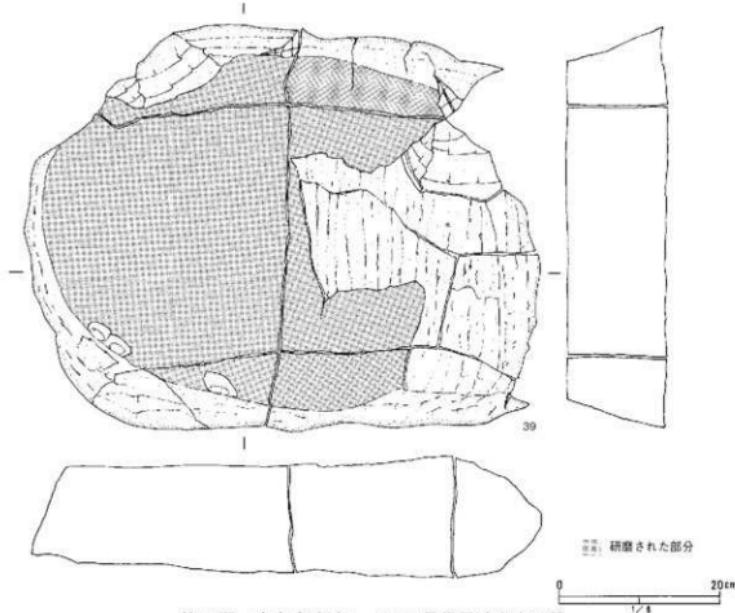
第13図 中丸東遺跡A-2区1号住居跡平・断面図（上）遺物分布図（下）



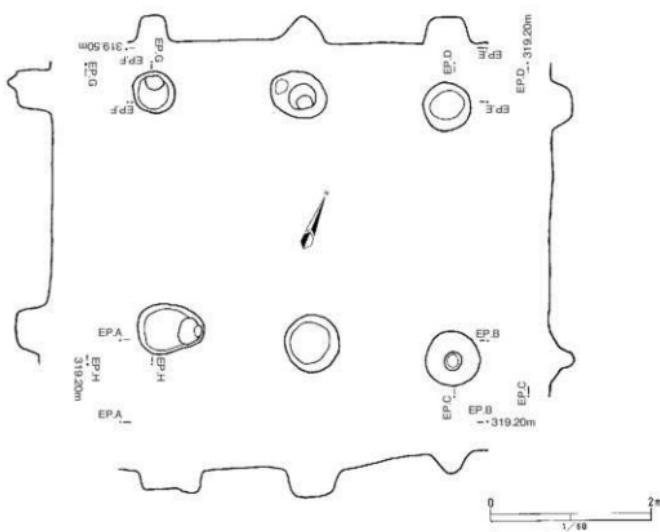
第14図 中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土遺物



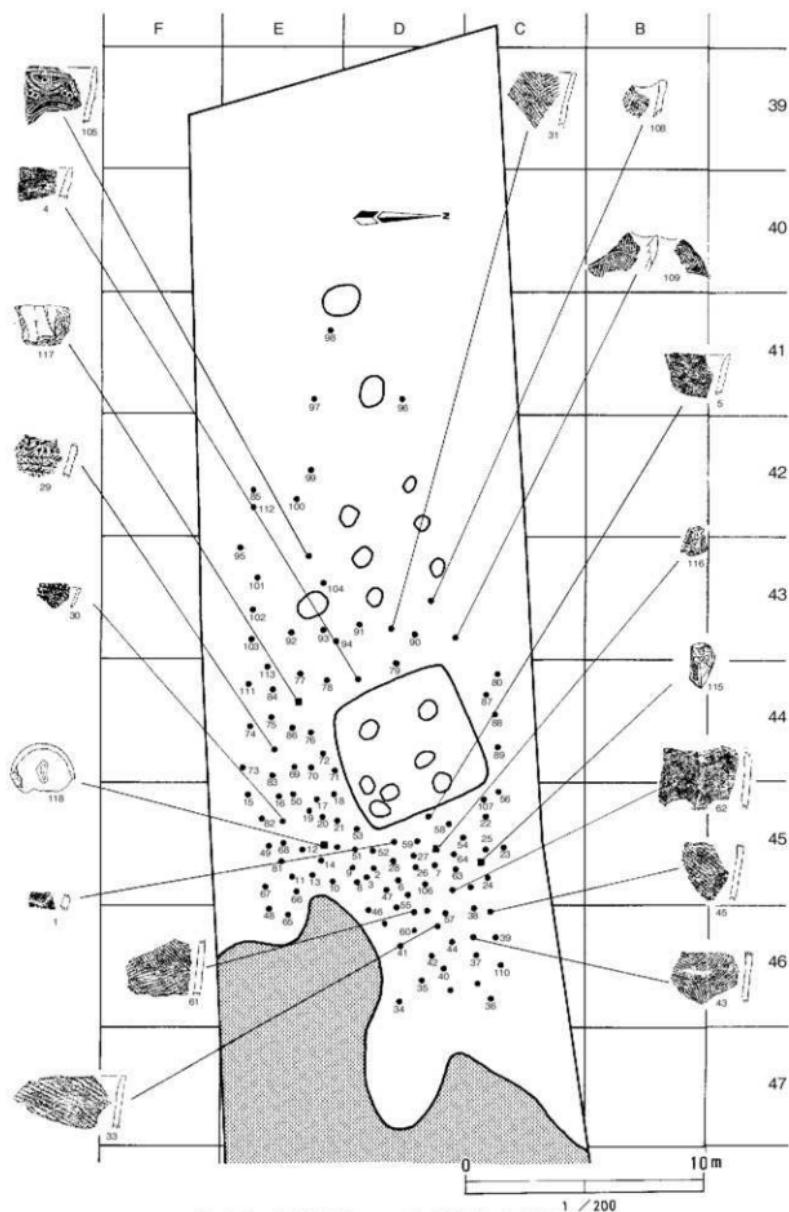
第15図 中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土遺物



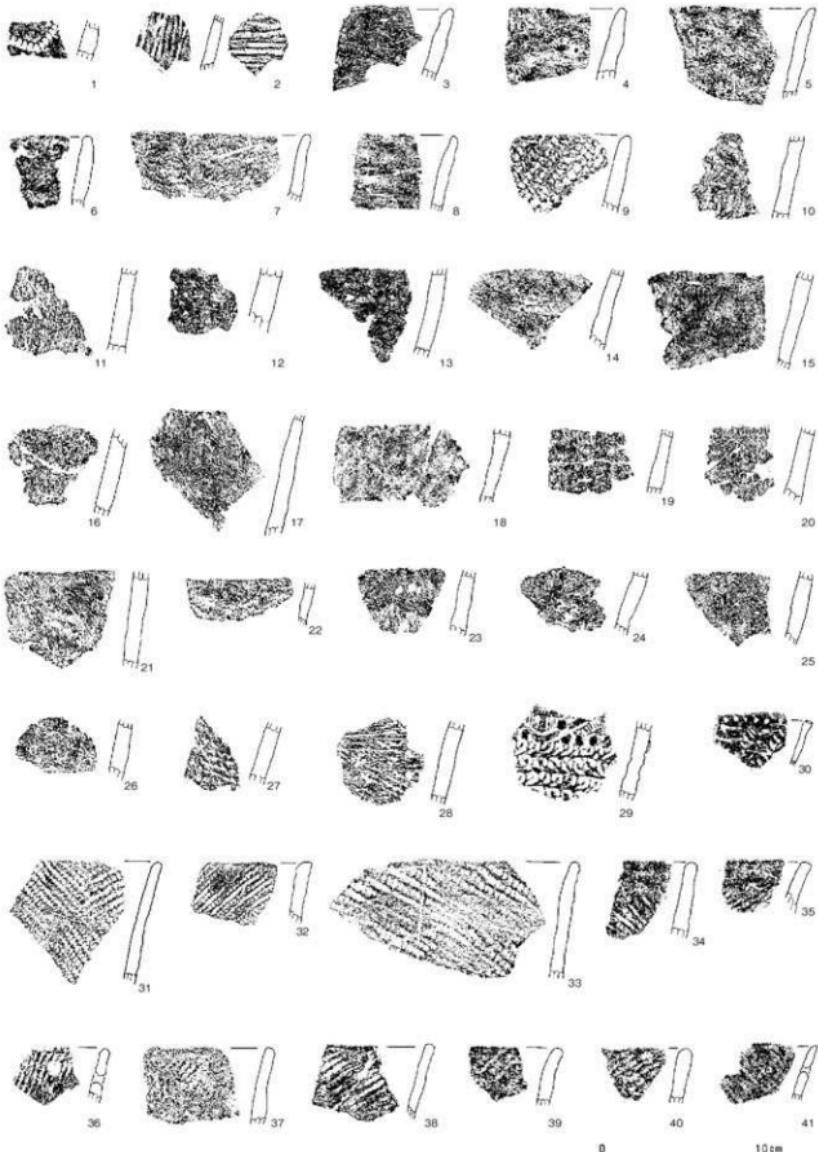
第16図 中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土石器



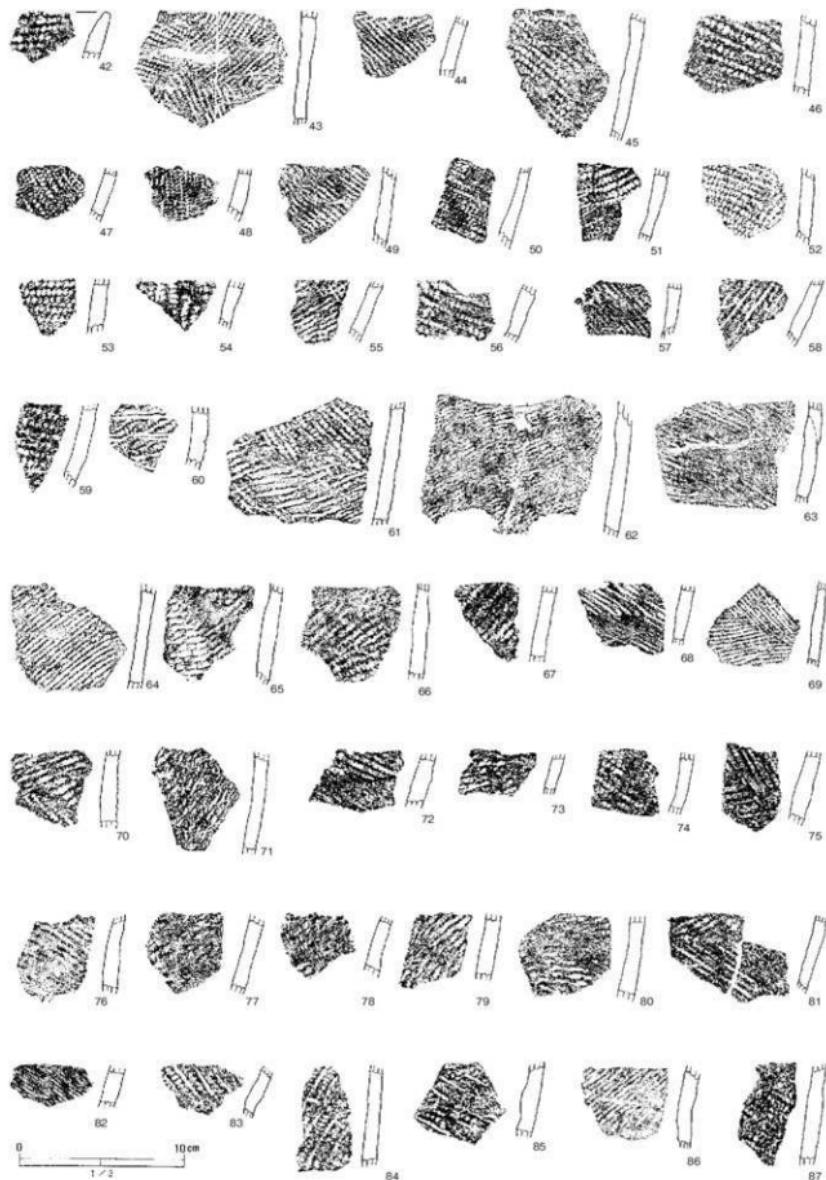
第17図 中丸東遺跡A-2区1号掘立柱建物跡平・断面図



第18図 中丸東遺跡A-2区遺構外出土遺物分布図



第19図 中丸東遺跡A-2区遺構外出土遺物



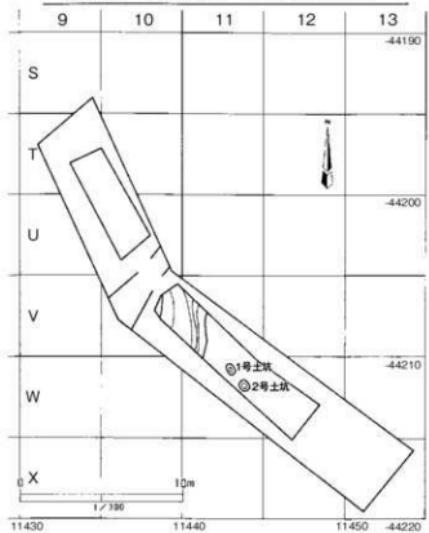
第20図 中丸東遺跡A-2区遺構外出土遺物



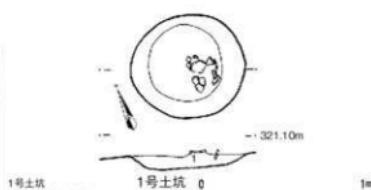
第21図 中丸東遺跡A-2区遺構外出土遺物



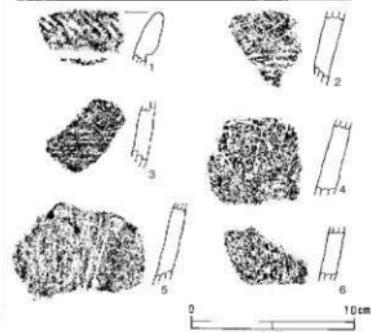
第22図 中丸遺跡A-3区北部全体図



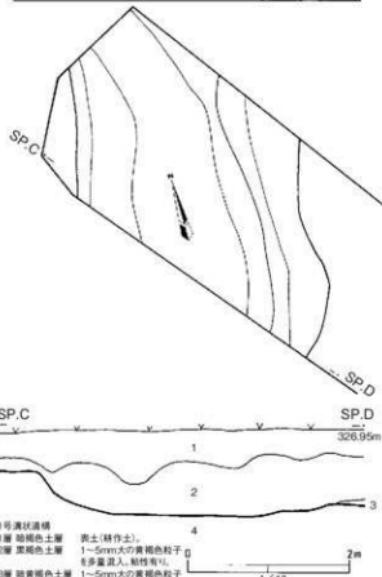
第25図 中丸遺跡A-3区南部全体図



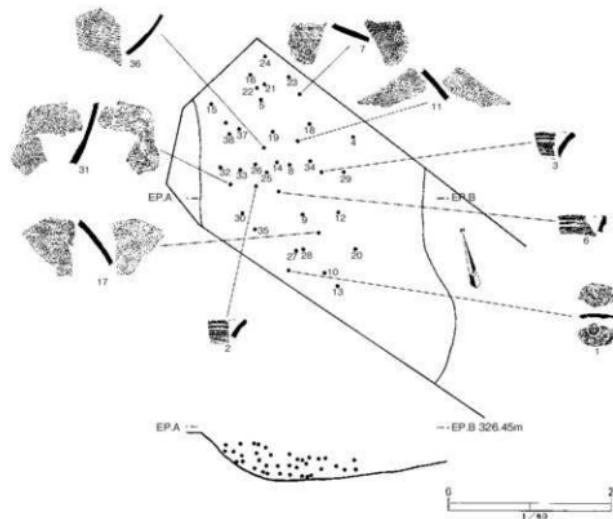
第23図 中丸遺跡A-3区北部1号土坑平・断面図



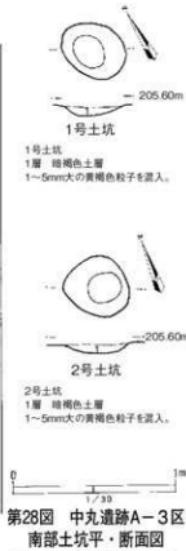
第24図 中丸遺跡A-3区北部1号土坑出土土器



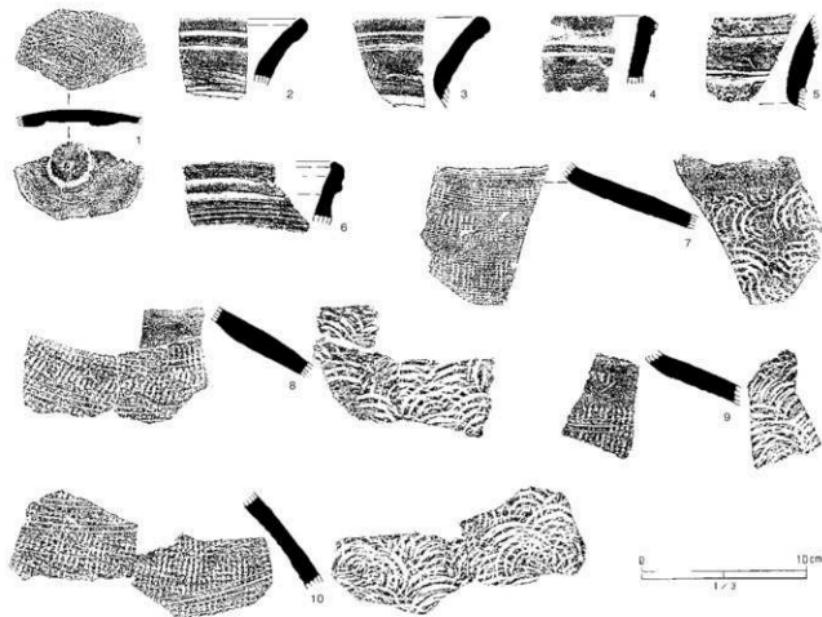
第26図 中丸遺跡A-3区南部1号溝状遺構平・断面図



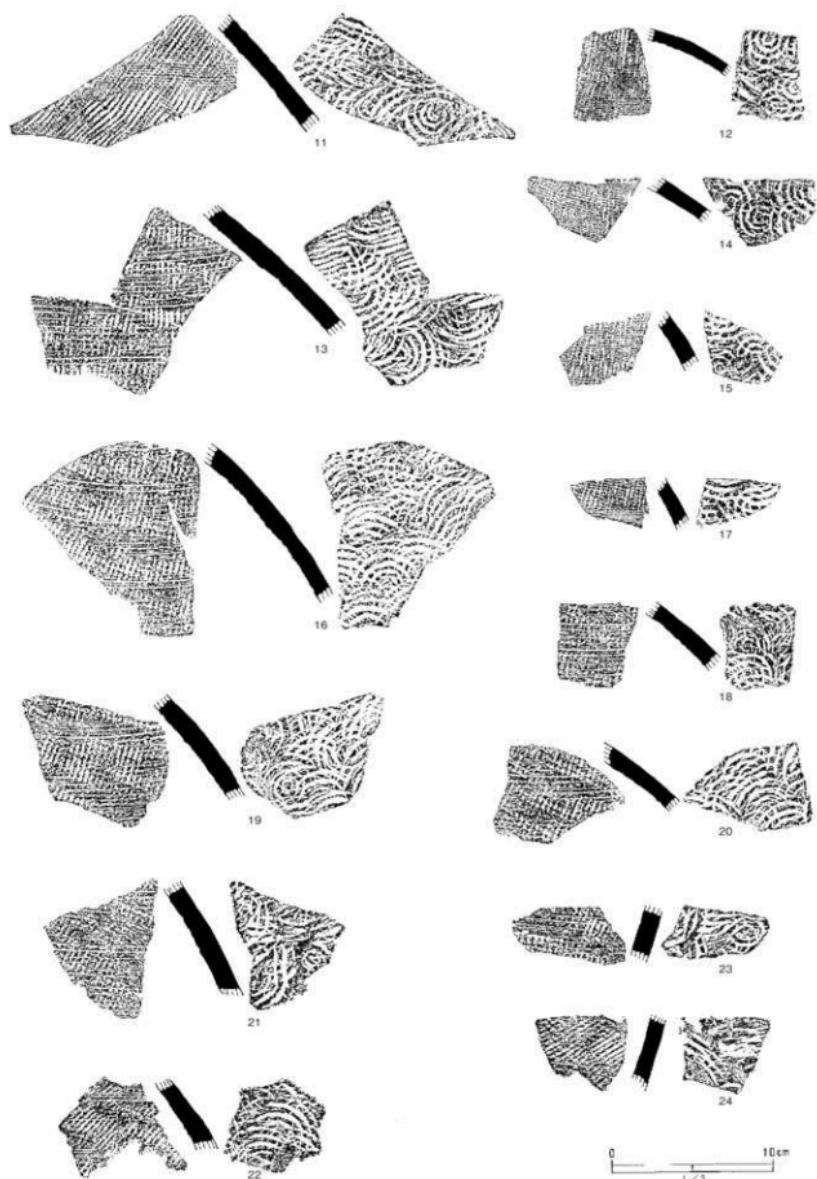
第27図 中丸遺跡A-3区南部1号溝状遺構遺物分布図



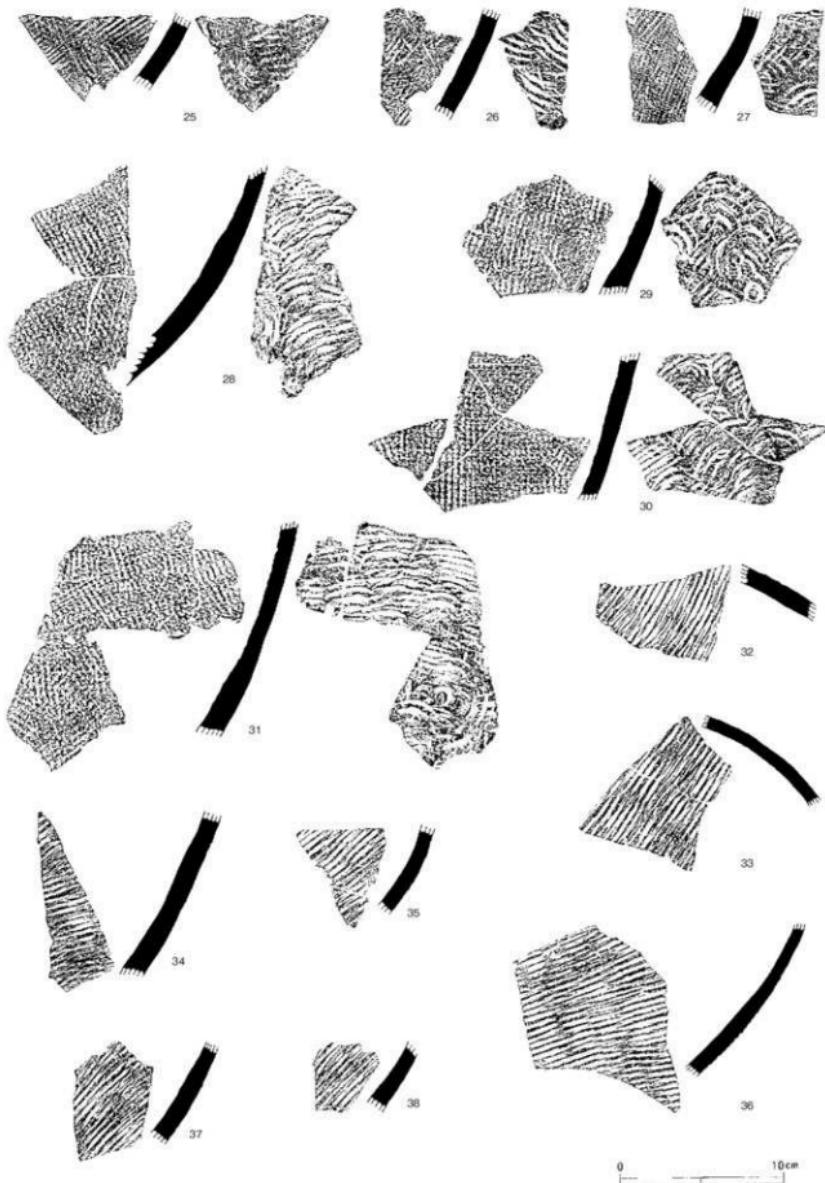
第28図 中丸遺跡A-3区  
南部土坑平・断面図



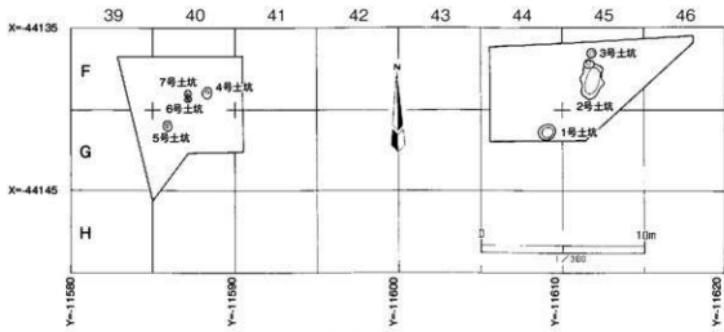
第29図 中丸遺跡A-3区南部1号溝状遺構出土遺物



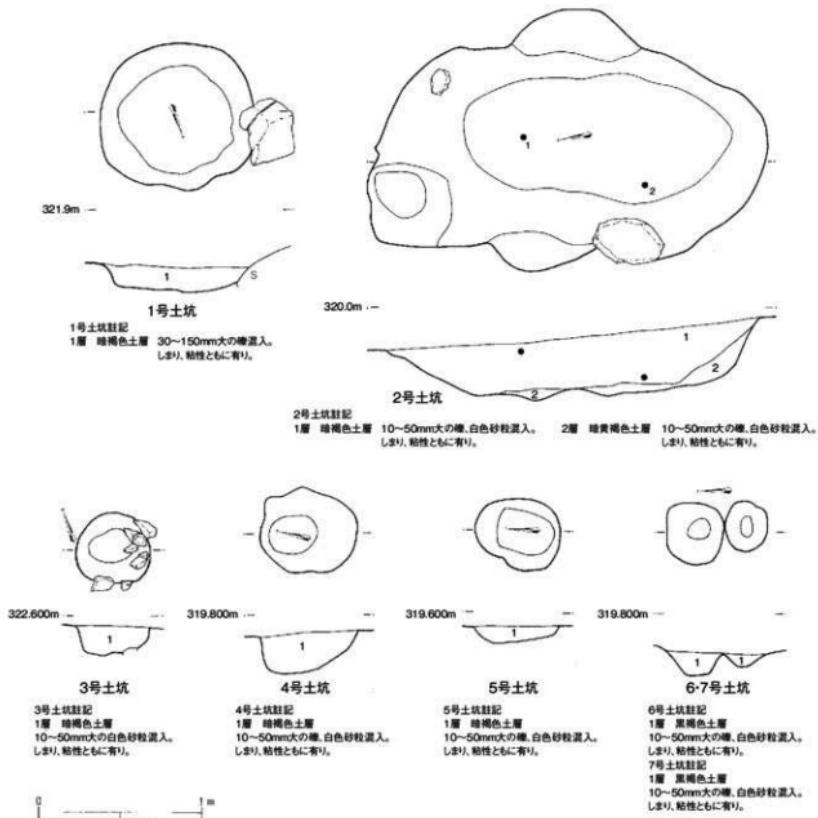
第30図 中丸遺跡A-3区南部1号溝状遺構出土遺物



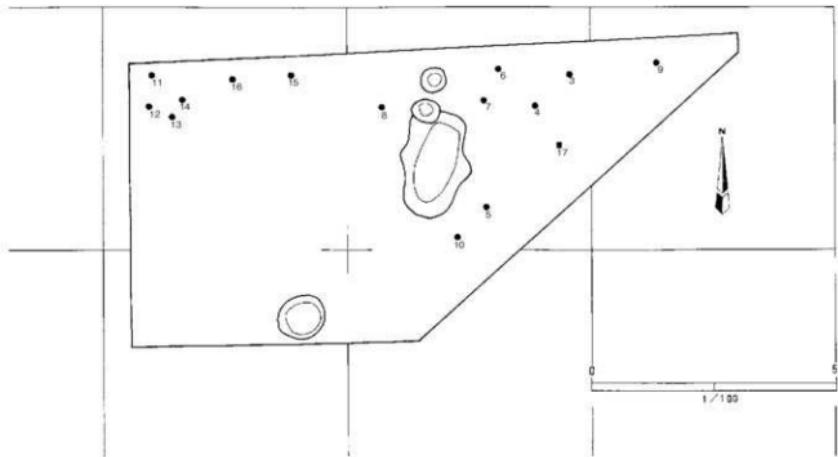
第31図 中丸遺跡A-3区南部1号溝状遺構出土遺物



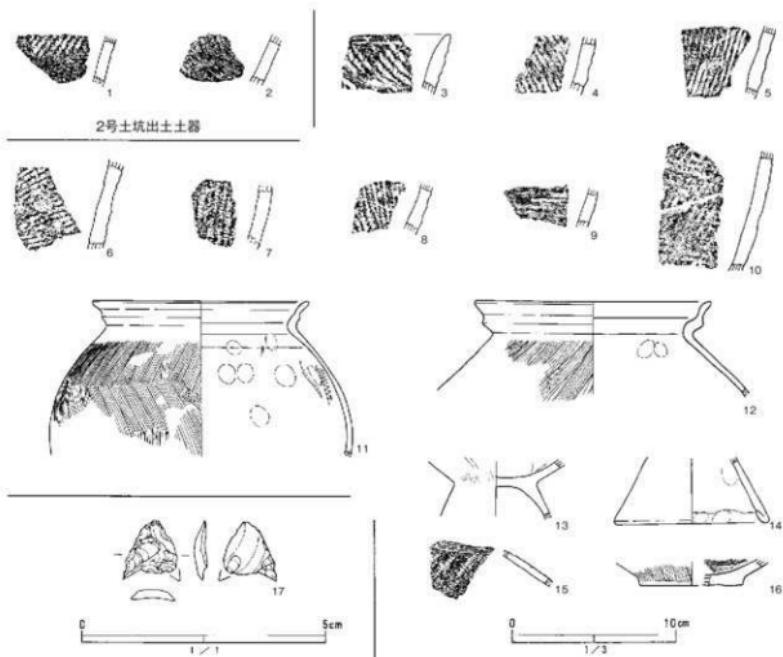
第32図 中丸東遺跡第2次調査全体図



第33図 中丸東遺跡第2次調査土坑平・断面図



第34図 中丸東遺跡第2次調査東側調査区遺物分布図



第35図 中丸東遺跡第2次調査出土遺物

# 写 真 図 版



中丸・中丸東遺跡遠景（東から）



図版 1 第1次調査



中丸遺跡A-1区西側完掘（北から）



中丸遺跡A-1区西側完掘（南から）



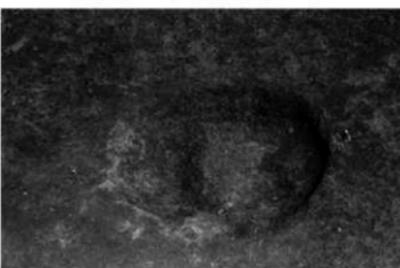
中丸遺跡A-1区東側完掘（北から）



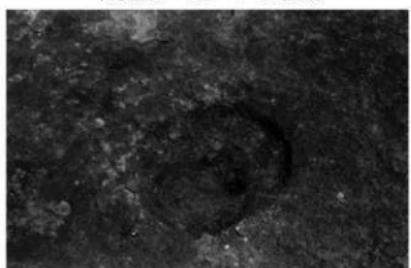
中丸遺跡A-1区東側完掘（南から）



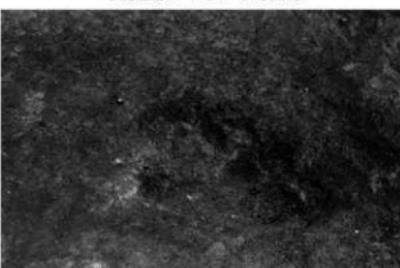
中丸遺跡A-1区 1・2号土坑



中丸遺跡A-1区 3号土坑

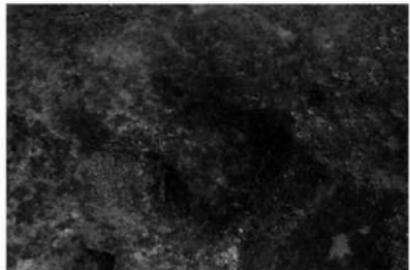


中丸遺跡A-1区 4号土坑

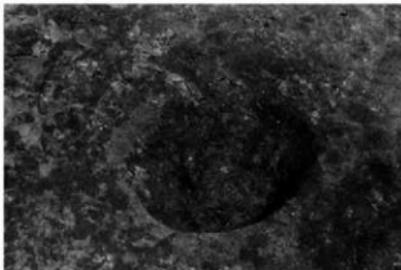


中丸遺跡A-1区 5号土坑

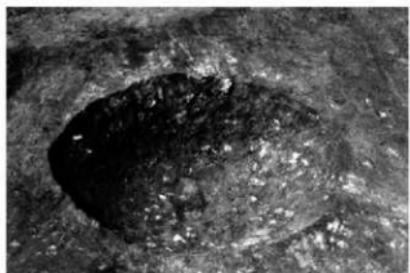
図版2 第1次調査



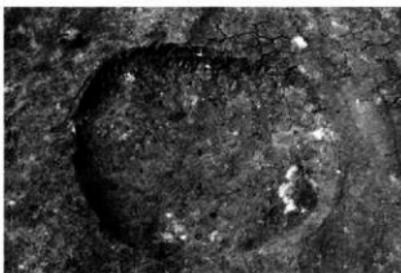
中丸遺跡A-1区 6号土坑



中丸遺跡A-1区 7号土坑



中丸遺跡A-1区 8号土坑



中丸遺跡A-1区 9号土坑



中丸遺跡A-1区 調査区南壁断面



中丸東遺跡A-2区 表土掘削



中丸東遺跡A-2区 全景（西から）



中丸東遺跡A-2区 1号住居跡

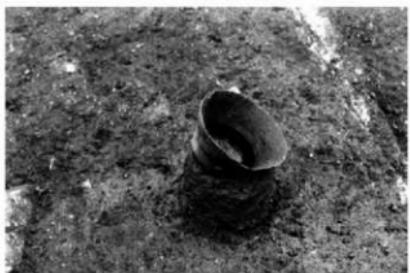
図版3 第1次調査



中丸東遺跡A-2区 1号住居跡遺物出土状況



中丸東遺跡A-2区 1号住居跡遺物出土状況



中丸東遺跡A-2区 1号住居跡遺物出土状況



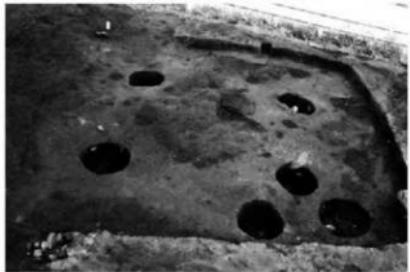
中丸東遺跡A-2区 1号住居跡遺物出土状況



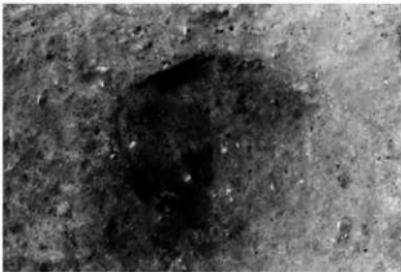
中丸東遺跡A-2区 1号住居跡遺物出土状況



中丸東遺跡A-2区 1号住居跡調査風景

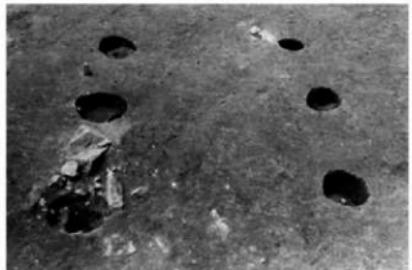


中丸東遺跡A-2区 1号住居跡完掘



中丸東遺跡A-2区 1号住居跡炉

図版4 第1次調査



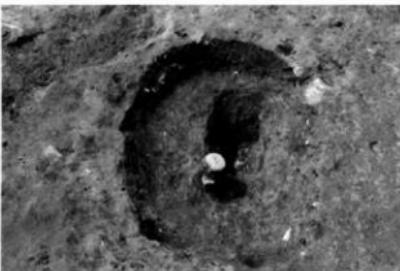
中丸東遺跡A-2区 1号掘立柱建物跡



中丸東遺跡A-2区 1号土坑



中丸東遺跡A-2区 2号土坑



中丸東遺跡A-2区 3号土坑



中丸遺跡A-3区北部調査風景（北から）



中丸遺跡A-3区北部調査風景（南東から）



中丸遺跡A-3区北部調査風景（南から）

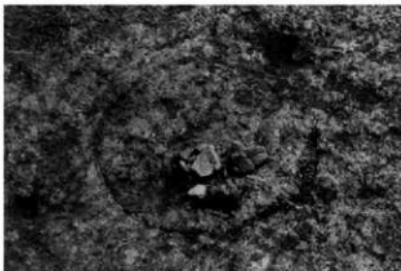


中丸遺跡A-3区北部調査風景（南から）

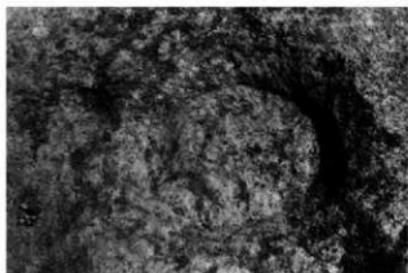
図版5 第1次調査



中丸遺跡A-3区 北部埋め戻し



中丸遺跡A-3区北部 1号土坑遺物出土状況



中丸遺跡A-3区北部 1号土坑



中丸遺跡A-3区南部 完掘（北から）



中丸遺跡A-3区南部（南から）



中丸遺跡A-3区南部 1号溝状遺構



中丸遺跡A-3区南部 1号溝状遺構断面（東から）



中丸遺跡A-3区南部 1号溝状遺構断面（西から）

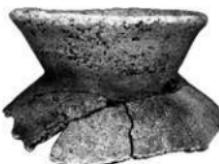
図版6 第1次調査



中丸遺跡A-1区土坑出土土器



中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土土器5



中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土土器1



中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土土器37



中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土土器8



中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土土器36



中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土土器左から6・7・9

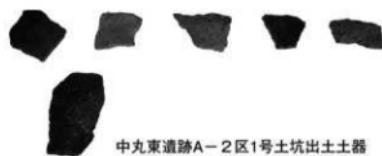


中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土土器左から31・32・33

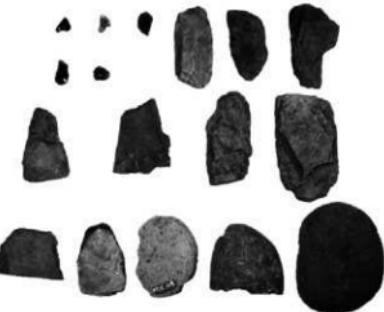


中丸東遺跡A-2区1号住居跡出土石器39

図版7 第1次調査



中丸東遺跡A-2区1号土坑出土土器



中丸東遺跡A-2区  
2号土坑出土土器

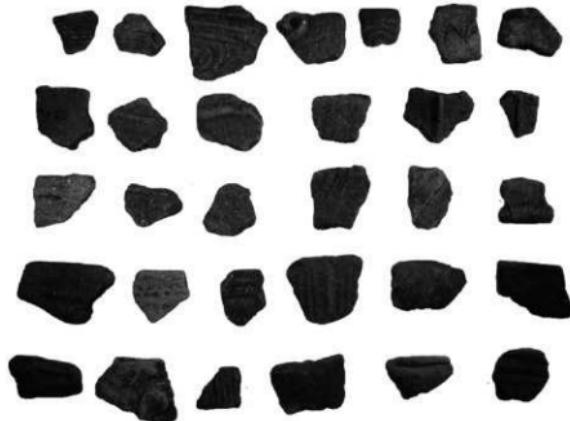


中丸東遺跡A-2区  
3号土坑出土土器

中丸遺跡A-1区・中丸東遺跡A-2区出土石器



中丸遺跡A-3区1号土坑出土土器

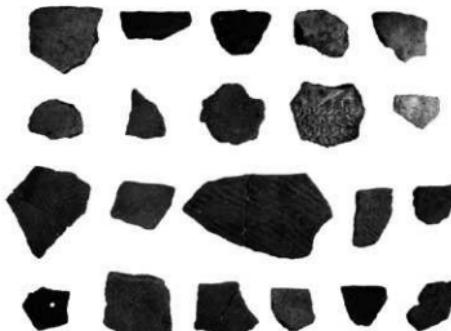


中丸遺跡A-1区包含層出土土器・土製品

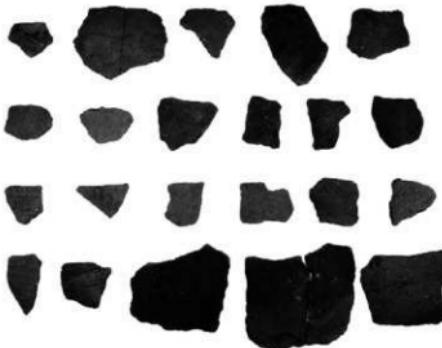
図版8 第1次調査



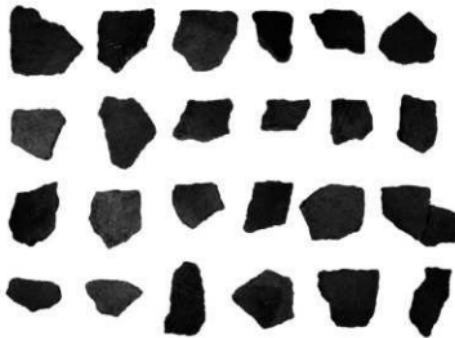
中丸東遺跡A-2区縄文時代包含層出土土器1~16



中丸東遺跡A-2区縄文時代包含層出土土器17~41



中丸東遺跡A-2区縄文時代包含層出土土器42~63



中丸東遺跡A-2区縄文時代包含層出土土器64~87



中丸東遺跡A-2区縄文時代包含層出土土器88~112



中丸遺跡A-3区北部1号溝状遺構出土須恵器1~10

図版10 第1次調査



中丸遺跡A-3区北部1号溝状遺構出土須恵器11~24

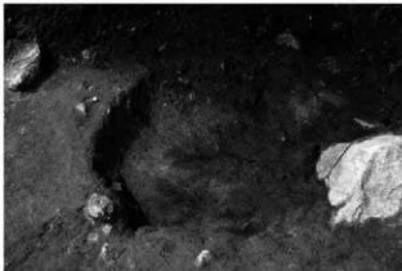


中丸遺跡A-3区北部1号溝状遺構出土須恵器25~36

中丸東遺跡第2次調査

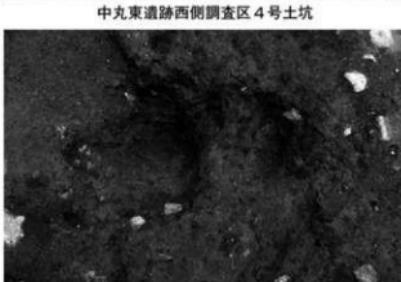
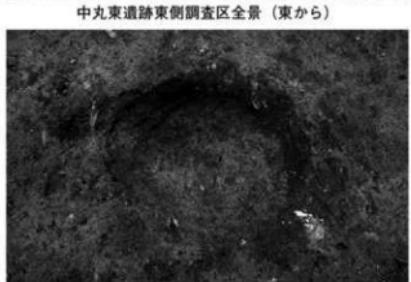
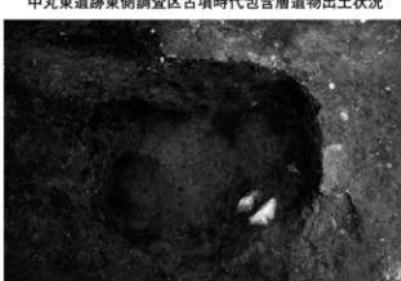
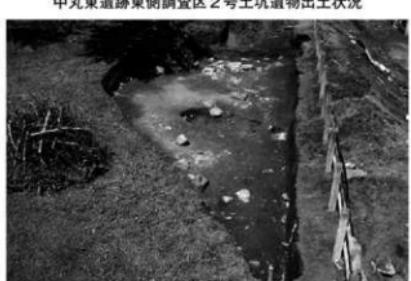
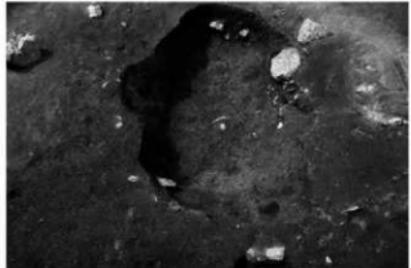


中丸東遺跡第2次調査区全景



中丸東遺跡東側調査区 1号土坑

図版11 第2次調査



図版12 第1次調査



中丸東遺跡西側調査区基本層序（調査区西壁）

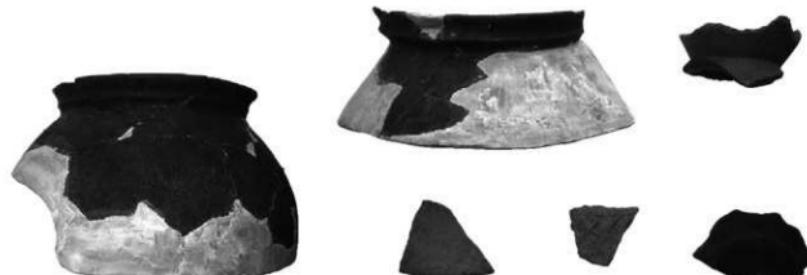


中丸東遺跡西側調査区全景（東から）



中丸東遺跡東側調査区出土縄文時代石器

中丸東遺跡東側調査区出土縄文時代土器  
(左から2片までは2号土坑出土、他は包含層出土)



中丸東遺跡東側調査区古墳時代包含層出土土器

# 報告書抄録

ふりがな	なかまる・なかまるひがしいせき						
書名	中丸・中丸東遺跡						
副題	山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書						
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第268集						
著者名	三田村美彦						
発行者	山梨県教育委員会、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構						
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター						
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016						
発行年月日	2011年3月25日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所取遺跡	所在地	市町村	遺跡番号				
なかまるいせき	やまなしけんふえふきしきかいかわちようこやまちない	19201	境川16	35° 36' 15"	138° 37' 17"	20080612 ~ 20081010	1.000 山梨リニア実験線建設
中丸遺跡	山梨県笛吹市 境川町小山地内						
なかまるひがしいせき	やまなしけんふえふきしきかいかわちようこやまちない	19201	境川13	35° 37' 17"	138° 37' 19"	20080612 20081010 20100601 ~ 20100702	1.097 山梨リニア実験線建設
中丸東遺跡	山梨県笛吹市 境川町小山地内						
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
中丸遺跡	散布地	縄文・古墳	溝状遺構・土坑	縄文土器・石器・須恵器	古墳時代後期の溝状遺構を検出。		
要約	本遺跡は、山梨リニア実験線建設に伴い調査され、縄文時代中期を主体とする包含層、土坑12基、古墳時代後期の溝状遺構1条などが検出された。						
中丸東遺跡	集落跡	縄文・古墳・平安	住居跡・土坑・掘立柱建物跡	縄文土器・石器・土師器	縄文時代前期の包含層出土土器及び、古墳時代前期住居跡の検出。		
要約	本遺跡は、山梨リニア実験線建設に伴い調査され、縄文時代前期の土器が包含層を中心に出土。また、縄文時代早期の土坑1基、前期の土坑3基、時期不明の土坑6基、古墳時代前期の住居跡1軒、時期不明の掘立柱建物跡1棟などが検出された。						

## 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第268集

### 中丸・中丸東遺跡

#### 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書

印刷日 2011年3月10日

発行日 2011年3月25日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016 FAX 055-266-3882

<http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/index.html>

発行 山梨県教育委員会、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

印刷 港北出版印刷株式会社

